

第 3 8 回
多摩市政世論調査報告書
概要版（抜粋）



令和 2 年 1 月

多 摩 市

目 次

I 調査の概要	1
II 調査対象者の特性	2
III 調査結果の分析	4
1. 定住意向	4
(1) 居住年数 (問 2)	4
(2) 多摩市の認識 (問 3)	5
(3) 定住意向 (問 4)	6
2. 生活環境	6
(1) 住みよさの総合評価 (問 5)	6
(2) 生活環境の総合評価 (問 6)	8
3. 環境問題の関心	9
(1) 関心のある地域レベルの環境問題 (問 7)	9
4. 地域活動と生涯学習	10
(1) 地域活動の現況と参加意向 (問 8)	10
5. スポーツの実施状況	11
(1) スポーツの実施頻度 (問 12)	11
6. 日常生活での実感	11
(1) 現在の幸福度 (問 13)	11
(2) 日常生活の悩み・不安 (問 14)	12
7. 暮らし向き	12
(1) 暮らし向きの変化 (問 15)	12
(2) 暮らし向きの悪化理由 (問 15-1)	14
8. たま広報について	15
(1) 「たま広報」の精読度 (問 17)	15
9. 市政への要望	16
(1) 行政に特に力を入れてほしいこと (問 33)	16
10. 生活の中での実感	18
(1) 日常生活での実感 (問 35)	18
11. 健康・食育	33
(1) 現在の健康状態 (問 36)	33
(2) 健康維持のために実践していること (問 38)	33
12. 男女平等	34
(1) 男女の地位の平等感 (問 45)	34
13. いざという時の近所との関わり	34
(1) いざという時の近隣協力関係 (問 50)	34
(2) 地域での助け合える関係 (問 51)	35
参考資料 (第 38 回多摩市政世論調査報告書 章立)	36

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の定住意向や居住地域に対する考え方、市政に対する要望などを把握し、行政の参考資料とするものである。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域：多摩市全域
- (2) 調査対象者：多摩市に居住する満 18 歳以上の男女個人
- (3) 標本数：3,000 人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳により層化無作為抽出法
- (5) 調査方法：調査票を郵送により送付・回収
- (6) 調査時期：令和元年 7 月 8 日～7 月 24 日

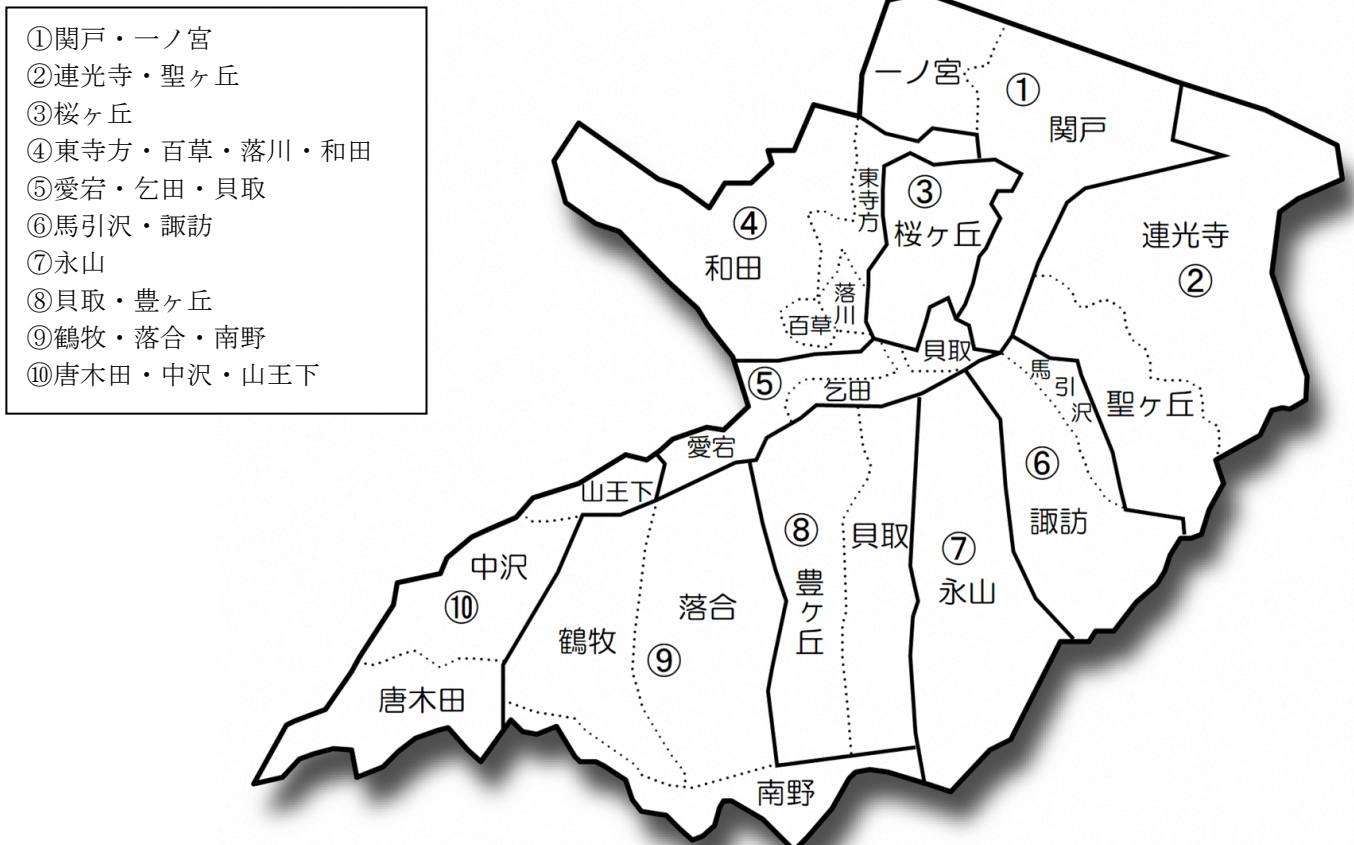
3. 回収結果

標本数	3,000
郵送未達	14
総回収数（率）	1,667（55.6%）
有効回答数*（率）	1,666（55.5%）
回収不能数（率）	1,319（44.0%）

※有効回答数は白票を除く

4. 地域別区分図

市内を 10 の地域ブロック（図中の丸数値）、17 の居住地区に分けて集計している。

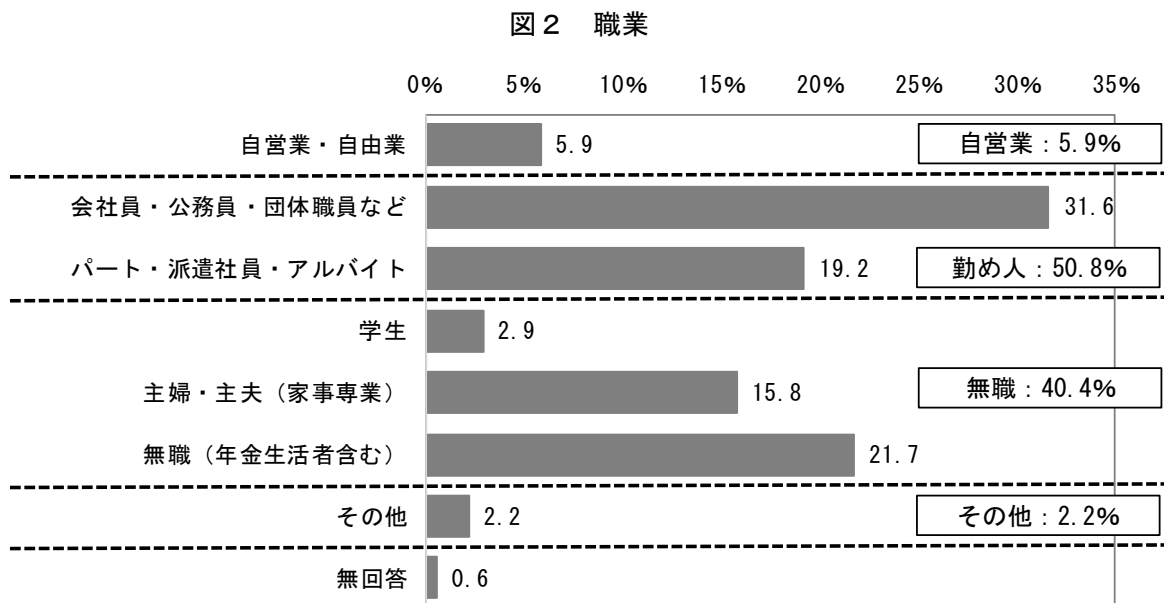


II 調査対象者の特性

【職業】

回答者の職業は「会社員・公務員・団体職員など」(31.6%)が最も高く、次いで「無職(年金生活者含む)」(21.7%)、「パート・派遣社員・アルバイト」(19.2%)、「主婦・主夫(家事専業)」(15.8%)、「自営業・自由業」(5.9%)の順となっている。

区分ごとにみると、「勤め人」(50.8%)が最も高く、次いで「無職」(40.4%)となっている。(図2)



【居住形態】

居住形態は「分譲マンション(持ち家)」(39.3%)、「一戸建て(持ち家)」(29.0%)が高く、両者を合わせた持ち家は68.3%となっている。借家では「民間のアパート・マンション」(11.2%)、「UR(旧公団)・公社の賃貸住宅」(9.8%)、「都・市営住宅」(6.7%)の順となっている。

居住地域別にみると、持ち家は「連光寺・聖ヶ丘」(84.5%)、「唐木田・中沢・山王下」(84.5%)、「桜ヶ丘」(82.2%)、「鶴牧・落合・南野」(73.6%)、で特に高くなっている。

「一戸建て(持ち家)」は「桜ヶ丘」(72.6%)が高く、「分譲マンション(持ち家)」は「唐木田・中沢・山王下」(62.1%)、「鶴牧・落合・南野」(58.8%)、「貝取・豊ヶ丘」(55.7%)で高くなっている。

いずれの地域も持ち家の方が多くなっているが、借家については、「馬引沢・諏訪」(47.0%)、「東寺方・百草・落川・和田」(44.5%)、「永山」(39.0%)、「愛宕・乞田・貝取」(34.9%)の借家率が高くなっている。(表5)

表5 居住形態（居住地域別）

		単位：%											
	合計（人）	持ち家			借家							その他	無回答
		一戸建て（持ち家）	分譲マンション	小計	一戸建て（借家）	民間のアパート・マンション（賃貸）	UR（旧公団）・公社の賃貸住宅	都・市営住宅	社宅・寮	小計			
全体		1,666	29.0	39.3	68.3	1.0	11.2	9.8	6.7	0.7	29.4	1.8	0.5
居住地域別	関戸・一ノ宮	164	37.2	36.0	73.2	1.8	22.0	1.2	0.0	1.2	26.2	0.6	0.0
	連光寺・聖ヶ丘	187	58.3	26.2	84.5	1.1	3.2	4.8	5.3	0.0	14.4	1.1	0.0
	桜ヶ丘	73	72.6	9.6	82.2	2.7	11.0	0.0	0.0	0.0	13.7	4.1	0.0
	東寺方・百草・落川・和田	173	46.8	7.5	54.3	2.9	18.5	15.0	6.4	1.7	44.5	1.2	0.0
	愛宕・乞田・貝取	186	24.2	37.6	61.8	0.0	14.5	5.9	14.5	0.0	34.9	3.2	0.0
	馬引沢・諏訪	162	14.2	38.9	53.1	0.0	18.5	6.2	20.4	1.9	47.0	0.0	0.0
	永山	156	15.4	43.6	59.0	0.6	5.1	32.7	0.6	0.0	39.0	1.9	0.0
	貝取・豊ヶ丘	158	7.0	55.7	62.7	0.0	6.3	13.9	10.8	0.0	31.0	4.4	1.9
	鶴牧・落合・南野	216	14.8	58.8	73.6	1.4	3.7	13.9	5.6	0.5	25.1	0.5	0.9
	唐木田・中沢・山王下	174	22.4	62.1	84.5	0.0	11.5	0.6	0.0	1.1	13.2	2.3	0.0
無回答	17	29.4	17.6	47.0	5.9	11.8	11.8	0.0	0.0	29.5	5.9	17.6	

■ は全体結果より5ポイント以上大きい属性

【ライフステージ】

ライフステージは「高齢者世帯」（23.7%）が最も高くなっている。次いで「家族成熟期」（14.2%）、「高齢期」（12.2%）、「独身期」（11.0%）の順となっている。

居住地域別にみると、「高齢者世帯」は「唐木田・中沢・山王下」（28.2%）が最も高くなっている。（表8）

表8 ライフステージ（居住地域別）

		単位：%									
	合計（人）	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	高齢期	高齢者世帯	その他	無回答	
		全体		11.0	6.0	9.2	6.5	14.2	12.2	23.7	15.4
居住地域別	関戸・一ノ宮	14.0	6.1	4.3	7.3	9.1	15.2	20.7	22.0	1.2	
	連光寺・聖ヶ丘	5.9	3.7	9.6	7.0	18.2	15.5	24.1	15.0	1.1	
	桜ヶ丘	8.2	4.1	11.0	6.8	21.9	12.3	20.5	13.7	1.4	
	東寺方・百草・落川・和田	11.6	10.4	8.1	7.5	13.3	15.6	19.7	11.0	2.9	
	愛宕・乞田・貝取	12.4	4.3	8.6	5.4	11.8	15.1	22.0	20.4	0.0	
	馬引沢・諏訪	9.3	4.9	12.3	6.8	17.3	5.6	25.9	16.0	1.9	
	永山	10.9	7.1	8.3	5.1	12.8	8.3	26.9	18.6	1.9	
	貝取・豊ヶ丘	15.8	3.8	8.2	5.1	15.2	10.8	25.9	13.9	1.3	
	鶴牧・落合・南野	9.7	8.8	9.3	7.9	13.0	14.4	22.7	13.0	1.4	
	唐木田・中沢・山王下	11.5	5.7	13.2	6.3	14.9	8.6	28.2	10.9	0.6	
無回答	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0	17.6	5.9	47.1		

■ は全体結果より5ポイント以上大きい属性

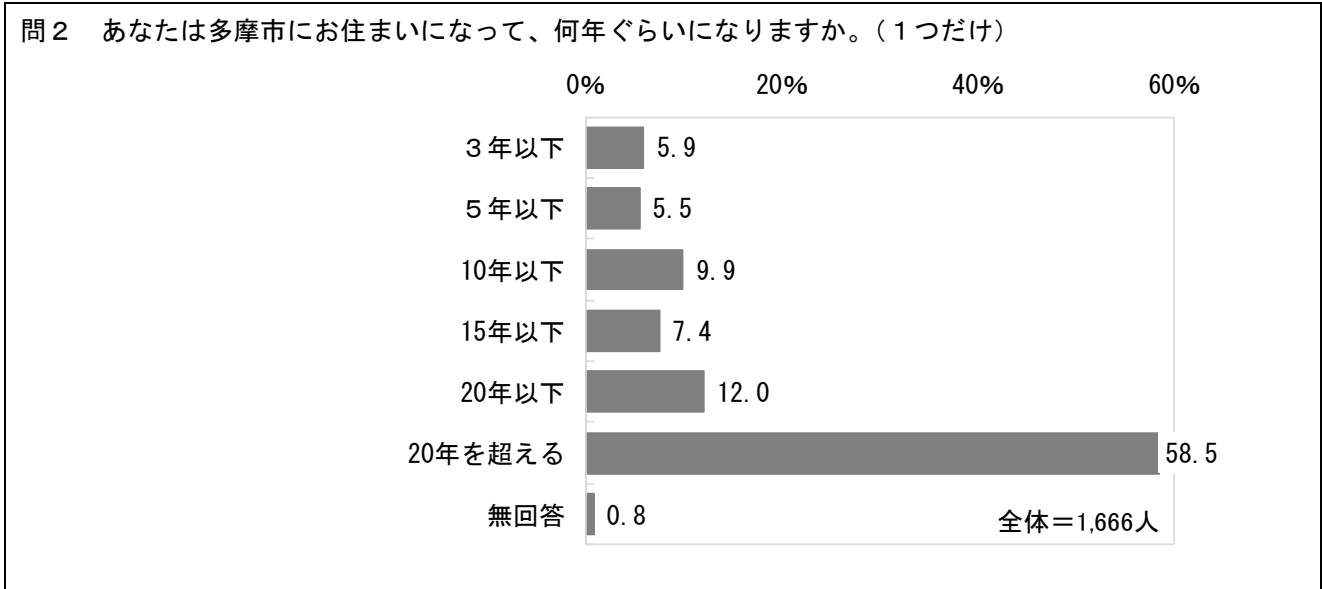
Ⅲ 調査結果の分析

1. 定住意向

【調査結果の分析を見る際の注意事項】

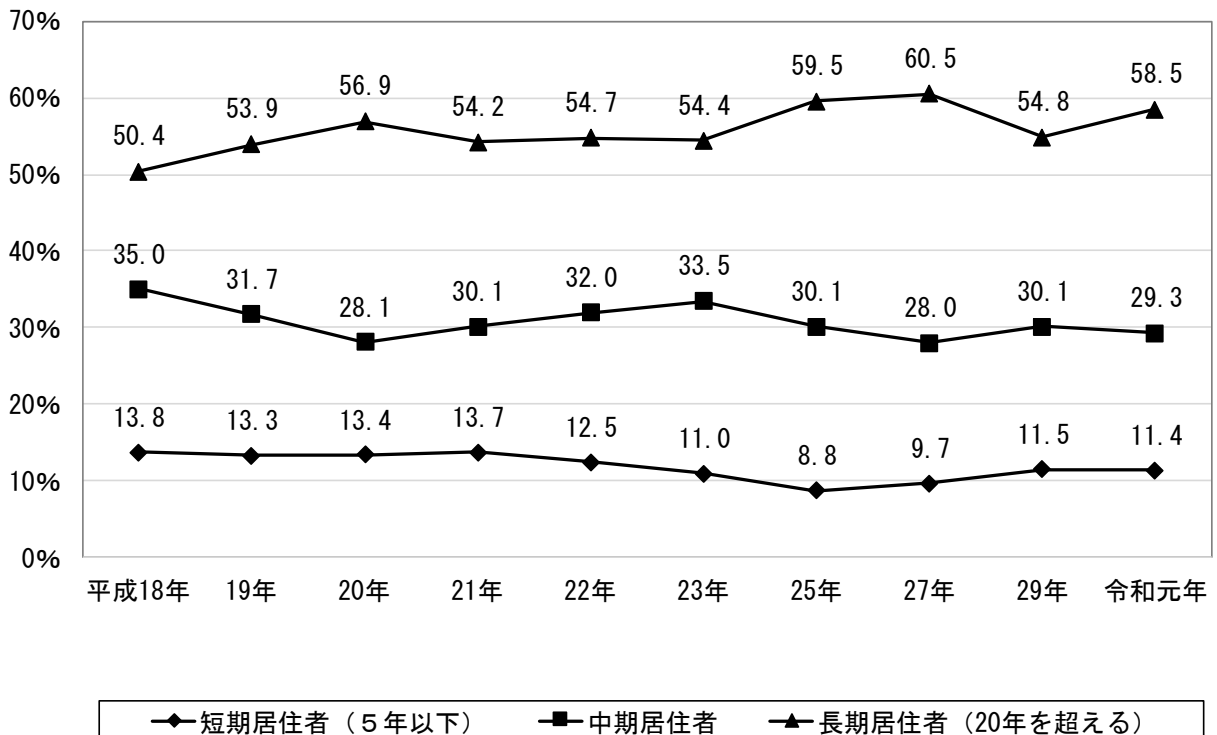
- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 小数点以下の数値においては、小数点以下第2位を四捨五入しているため、小数点第1位の数値同士を合計した場合、単純合計の数値と異なる場合がある。
- 2つ以上回答をしてもよい質問（複数回答）の場合、百分率の合計は通常100%を超える。
- 属性別の分析にあたっては、各属性サンプル数が少数（30未満）の場合には、標本誤差が大きくなるためコメントを控えており、参考程度に見ていただきたい。

（1）居住年数（問2）

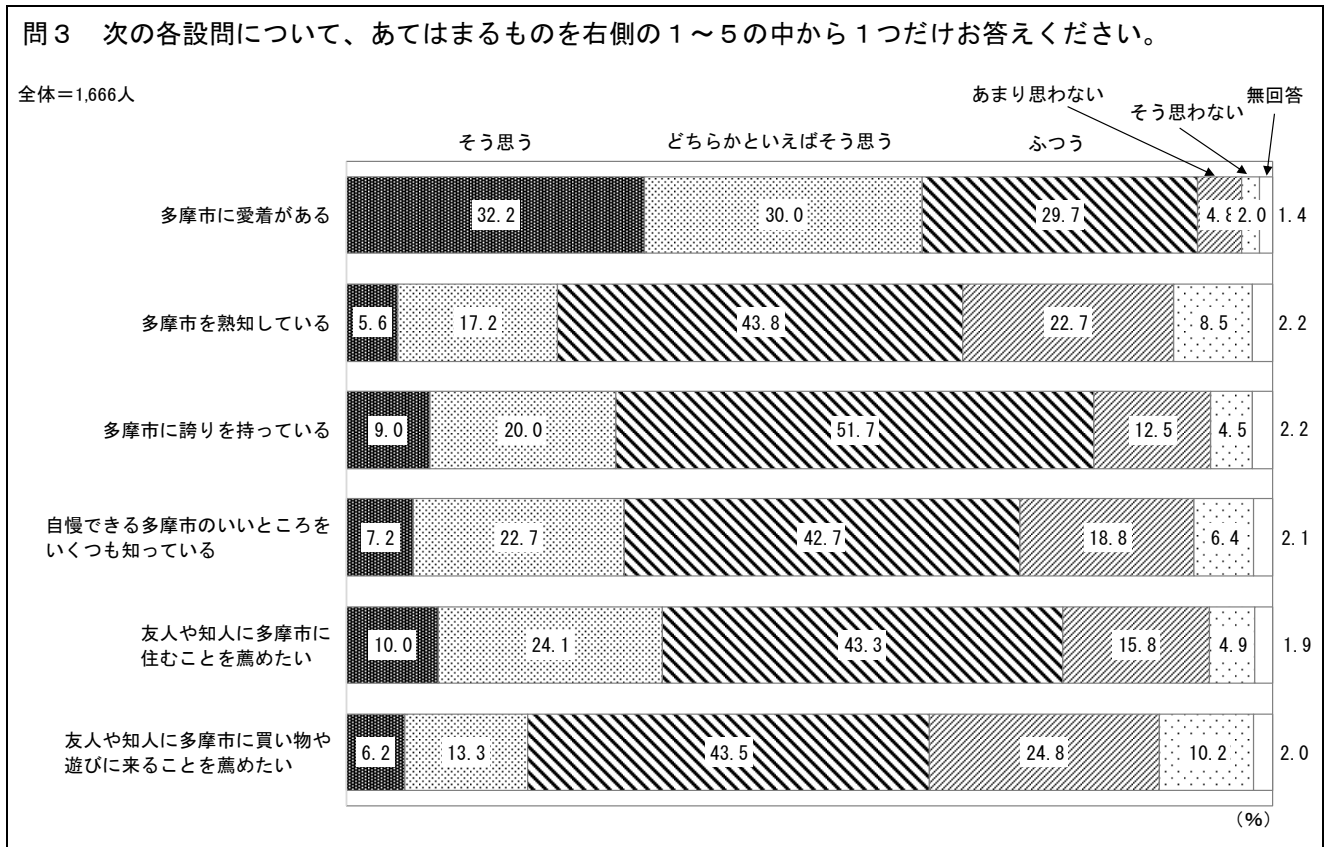


「3年以下」(5.9%)、「5年以下」(5.5%)を合わせた“短期居住者”が11.4%、「10年以下」(9.9%)、「15年以下」(7.4%)、「20年以下」(12.0%)を合わせた“中期居住者”が29.3%、「20年を超える」“長期居住者”が58.5%となっており、“長期居住者”が全体の5割以上を占めている。

居住年数（経年変化）



(2) 多摩市の認識 (問3)



「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた“肯定的評価”は、「多摩市に愛着がある」が62.2%となり、他と比べて特に高く、次いで、「友人や知人に多摩市に住むことを薦めたい」(34.1%)、「自慢できる多摩市のいいところをいくつも知っている」(29.9%)の順で高くなっている。

「あまり思わない」、「そう思わない」を合わせた“否定的評価”は、「友人や知人に多摩市に買い物や遊びに来ることを薦めたい」(35.0%)、「多摩市を熟知している」(31.2%)、「自慢できる多摩市のいいところをいくつも知っている」(25.2%)の順に高くなっている。(表1-5)

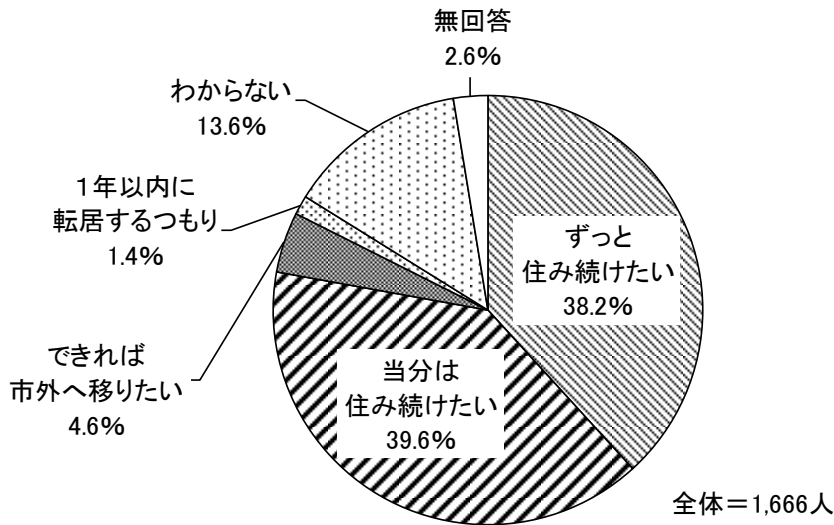
表1-5 多摩市の認識

単位：%

	肯定的評価			ふつう	否定的評価			無回答
	そう思う	どちらかといえばそう思う	小計		あまり思わない	そう思わない	小計	
多摩市に愛着がある	32.2	30.0	62.2	29.7	4.8	2.0	6.8	1.4
多摩市を熟知している	5.6	17.2	22.8	43.8	22.7	8.5	31.2	2.2
多摩市に誇りを持っている	9.0	20.0	29.0	51.7	12.5	4.5	17.0	2.2
自慢できる多摩市のいいところをいくつも知っている	7.2	22.7	29.9	42.7	18.8	6.4	25.2	2.1
友人や知人に多摩市に住むことを薦めたい	10.0	24.1	34.1	43.3	15.8	4.9	20.7	1.9
友人や知人に多摩市に買い物や遊びに来ることを薦めたい	6.2	13.3	19.5	43.5	24.8	10.2	35.0	2.0

(3) 定住意向 (問4)

問4 あなたはこれからも多摩市に住み続けたいと思いますか。(1つだけ)

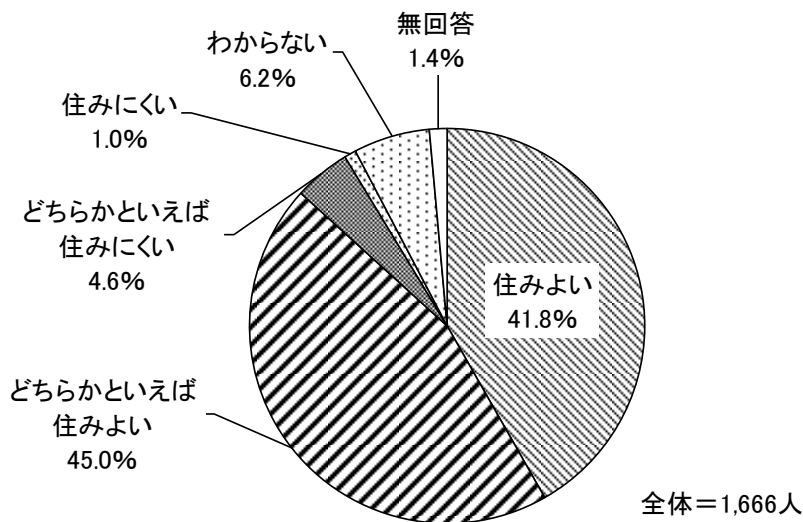


「ずっと住み続けたい」(38.2%)、「当分は住み続けたい」(39.6%)を合わせた“定住派”が77.8%を占めている。反対に「できれば市外へ移りたい」(4.6%)、「1年以内に転居するつもり」(1.4%)を合わせた“転居派”は6.0%にとどまっている。

2. 生活環境

(1) 住みよさの総合評価 (問5)

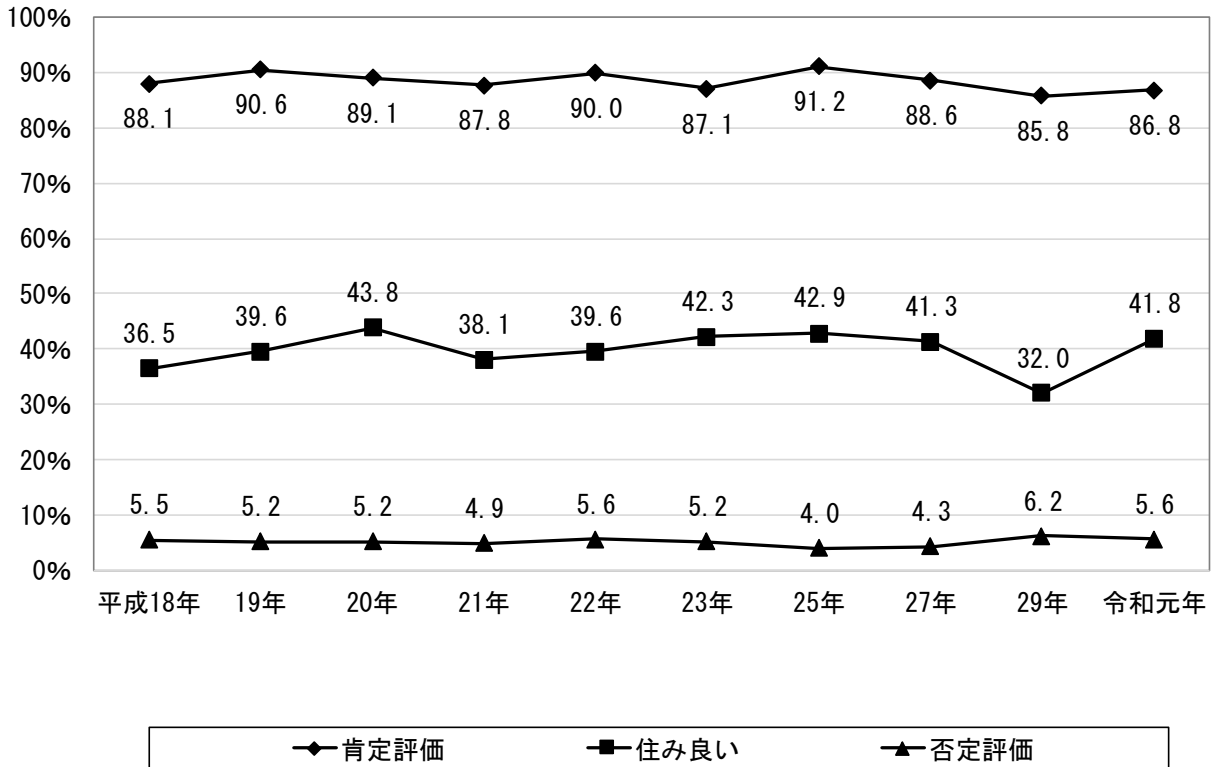
問5 あなたは総合的にみて、多摩市は住みよいまちだと思いますか。(1つだけ)



「住みよい」(41.8%)、「どちらかといえば住みよい」(45.0%)を合わせた“肯定的評価”が86.8%と全体の8割以上を占めている。「どちらかといえば住みにくい」(4.6%)、「住みにくい」(1.0%)を合わせた“否定的評価”は5.6%にとどまっている。

平成18年以降の住みよさの総合評価の推移をみると、“肯定的評価”は85%から95%の間、“否定的評価”は5%前後でほぼ一定している。「住みよい」も40%前後でほぼ横ばいで推移し、平成29年調査で減少したが、今回の調査で41.8%と再び上昇に転じた。(図2-1)

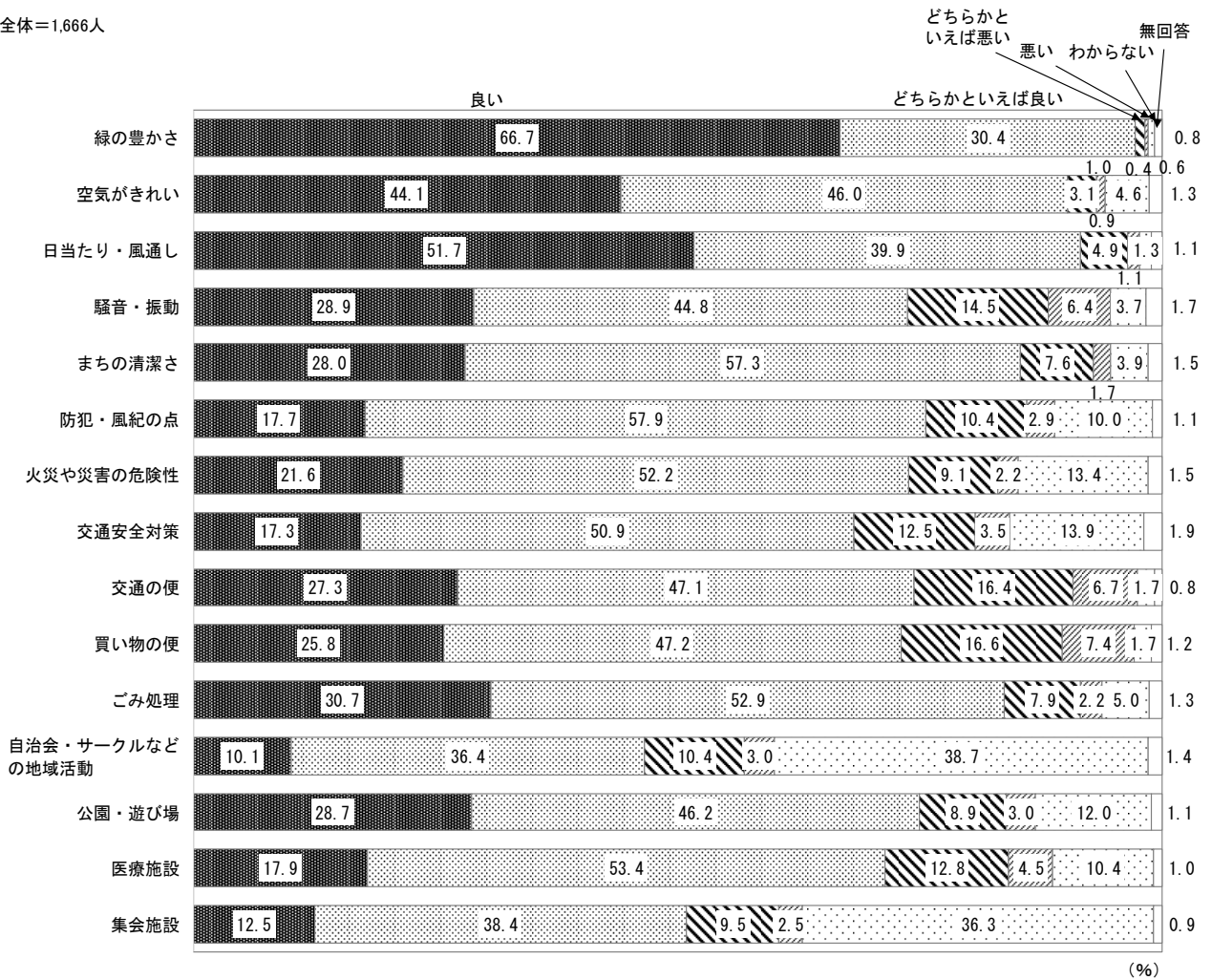
図2-1 住みよさの総合評価（経年変化）



(2) 生活環境の総合評価 (問6)

問6 あなたのお住まいの地域環境について、どのような感想をお持ちですか。次にあげる1)～15)の各項目に、右側の1～5の中から1つだけお答えください。

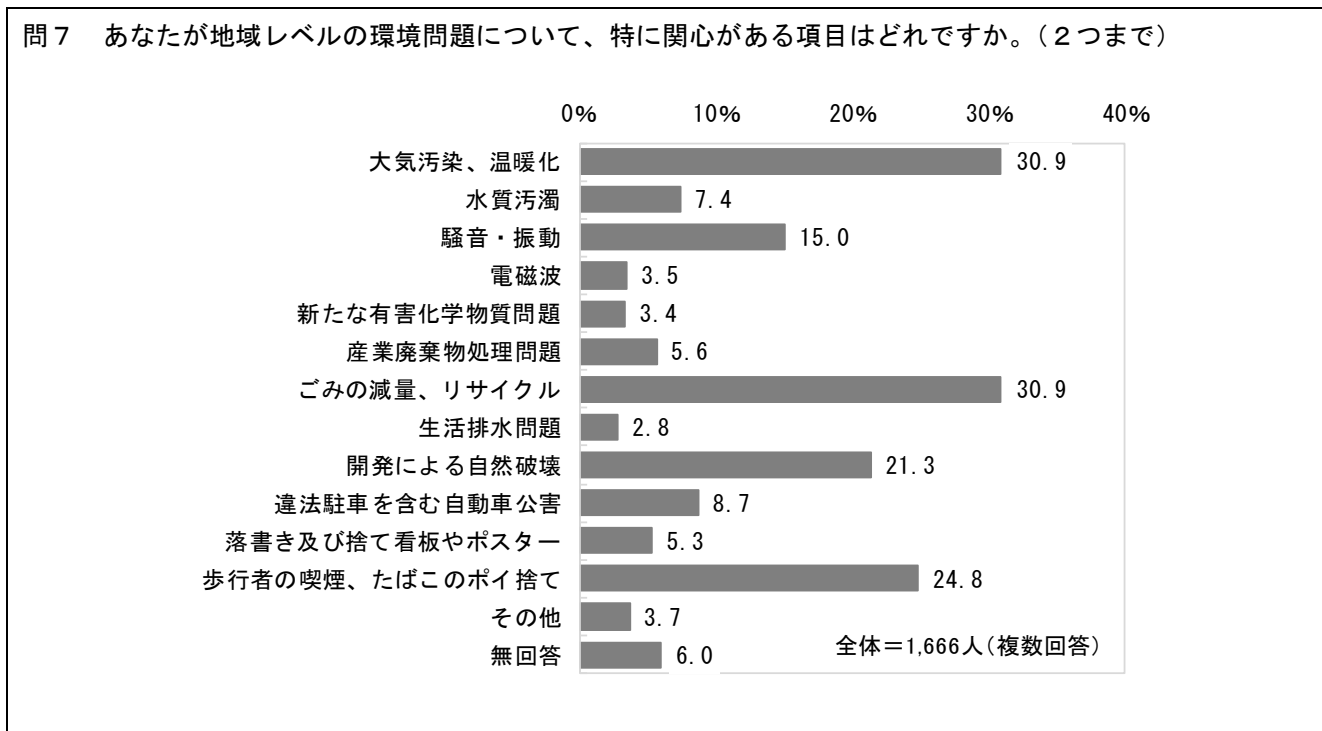
全体=1,666人



住まいの地域環境は、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた“肯定的評価”では「緑の豊かさ」(97.1%)、「日当たり・風通し」(91.6%)、「空気がきれい」(90.1%)といった自然環境に関する項目が9割前後と上位を占めている。次いで「まちの清潔さ」(85.3%)、「ごみ処理」(83.6%)となっている。

3. 環境問題の関心

(1) 関心のある地域レベルの環境問題（問7）



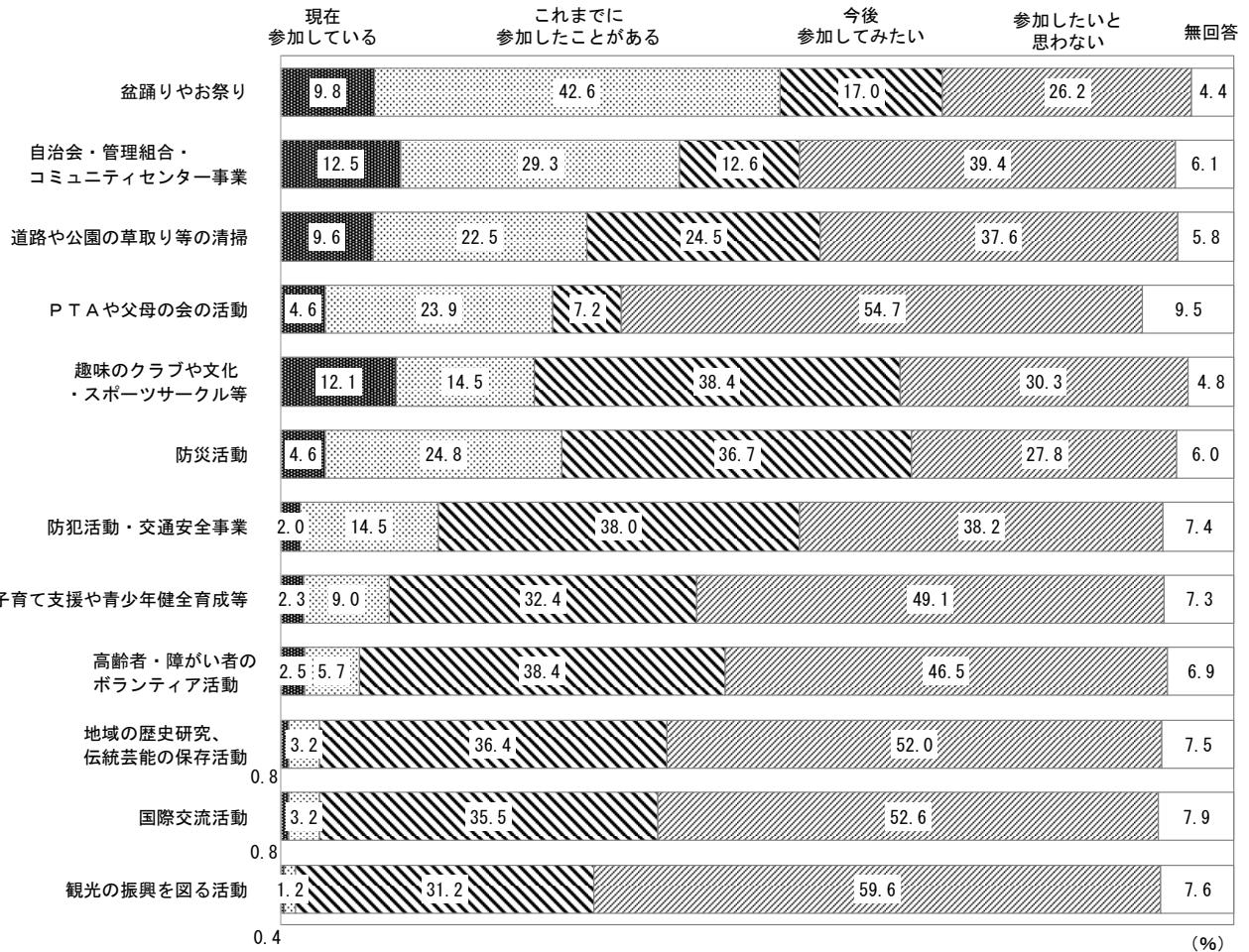
「大気汚染、温暖化」(30.9%)と「ごみの減量、リサイクル」(30.9%)が最も高く、次いで「歩行者の喫煙、たばこのポイ捨て」(24.8%)、「開発による自然破壊」(21.3%)、「騒音・振動」(15.0%)の順となっている。

4. 地域活動と生涯学習

(1) 地域活動の現況と参加意向 (問8)

問8 あなたは現在、地域活動や行事、またはボランティア活動についてどのような状況ですか。1)～12)の各活動について、状況を右側の1～4の中から1つだけお答えください。

全体=1,666人



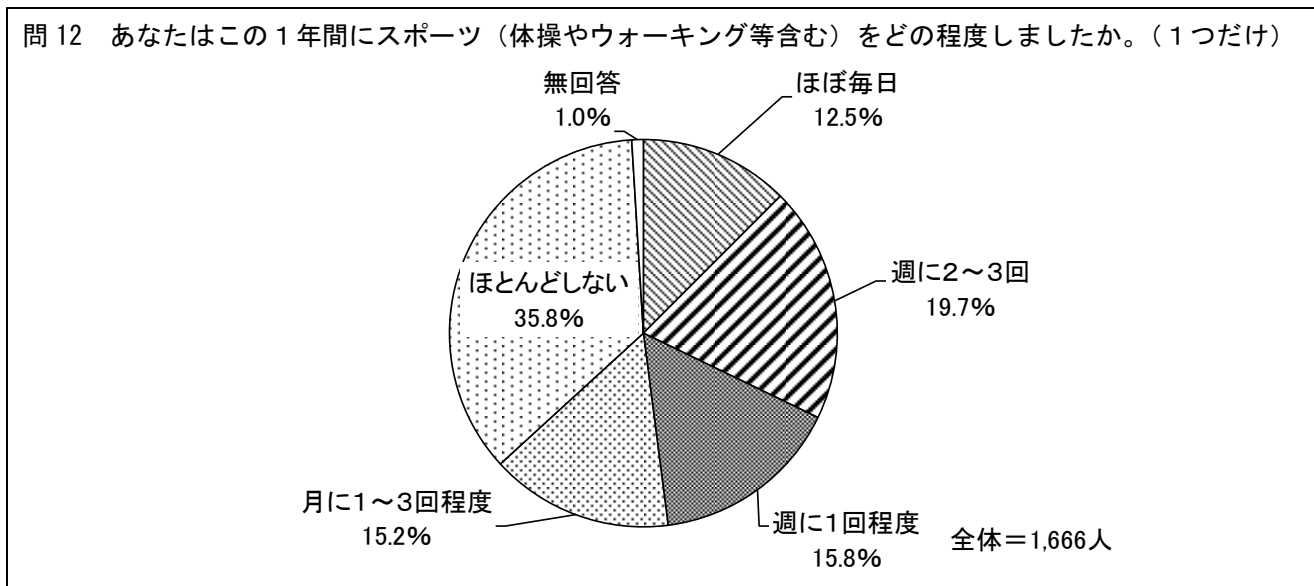
「現在参加している」は「自治会・管理組合・コミュニティセンター事業」(12.5%)、「趣味のクラブや文化・スポーツサークル等」(12.1%)、「盆踊りやお祭り」(9.8%)が高く、次いで「道路や公園の草取り等の清掃」(9.6%)、「PTAや父母の会の活動」(4.6%)、「防災活動」(4.6%)の順となっている。

「これまでに参加したことがある」は「盆踊りやお祭り」(42.6%)が最も高く、「自治会・管理組合・コミュニティセンター事業」(29.3%)が続き、次いで「防災活動」(24.8%)、「PTAや父母の会の活動」(23.9%)、「道路や公園の草取り等の清掃」(22.5%)の順となっている。

「現在参加していないが今後参加してみたい」は「趣味のクラブや文化・スポーツサークル等」(38.4%)と「高齢者・障がい者のボランティア活動」(38.4%)が同率で高く、次いで「防犯活動・交通安全事業」(38.0%)、「防災活動」(36.7%)、「地域の歴史研究、伝統芸能の保存活動」(36.4%)の順となっている。

5. スポーツの実施状況

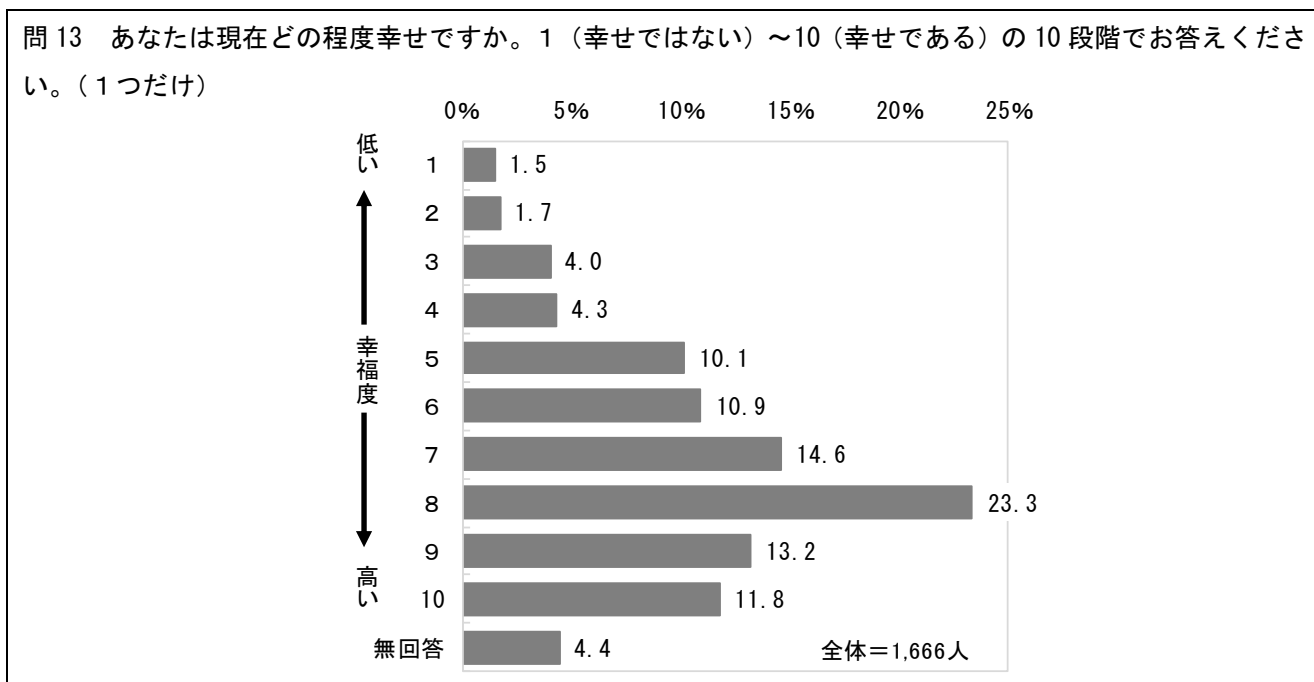
(1) スポーツの実施頻度 (問 12)



スポーツ（体操やウォーキング等含む）の実施頻度は、「ほとんどしない」（35.8%）が高く、「週に2～3回」（19.7%）、「週に1回程度」（15.8%）の順となっている。

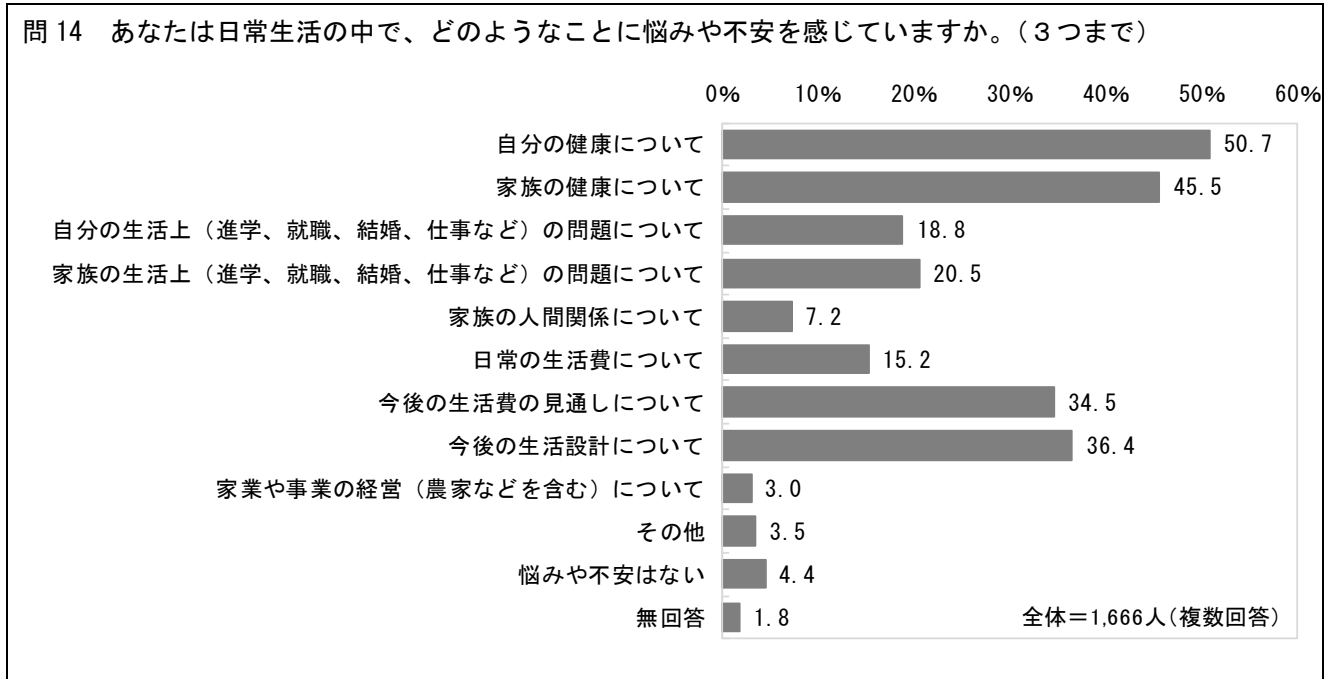
6. 日常生活での実感

(1) 現在の幸福度 (問 13)



幸福度について最も多いのが「8」（23.3%）で、次いで「7」（14.6%）、「10」（11.8%）の順となっている。

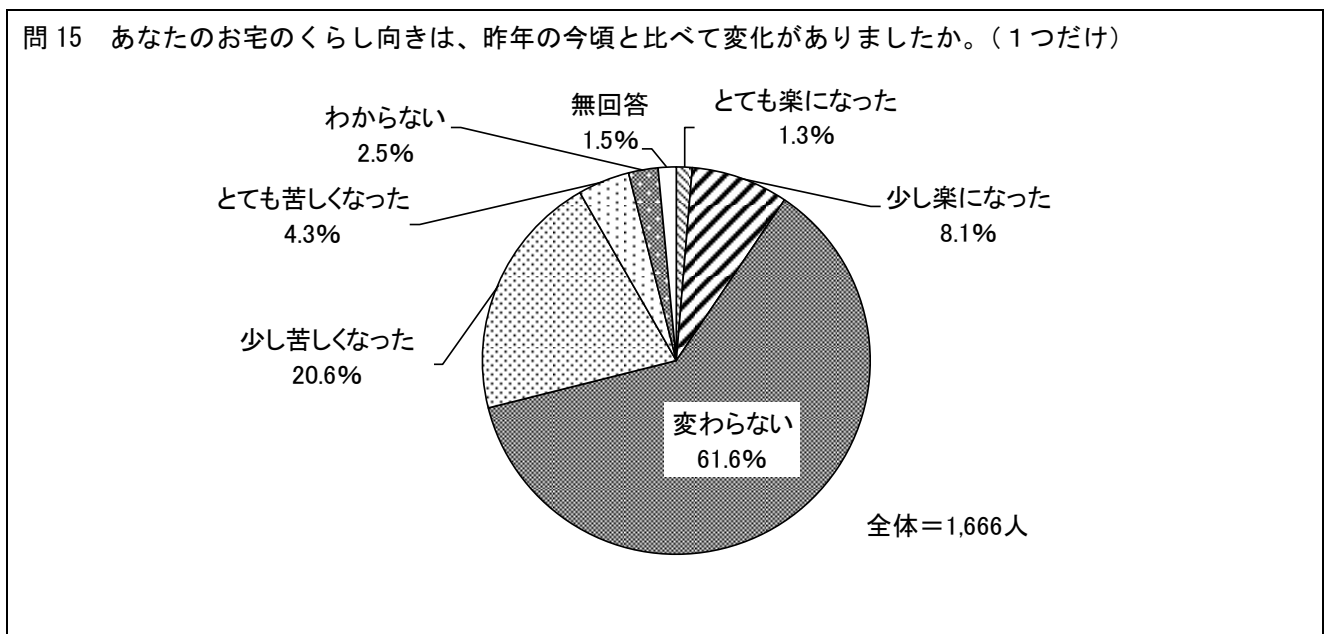
(2) 日常生活の悩み・不安 (問 14)



「自分の健康について」(50.7%)、「家族の健康について」(45.5%)が高くなっている。以下「今後の生活設計について」(36.4%)、「今後の生活費の見通しについて」(34.5%)の順となっている。

7. 暮らし向き

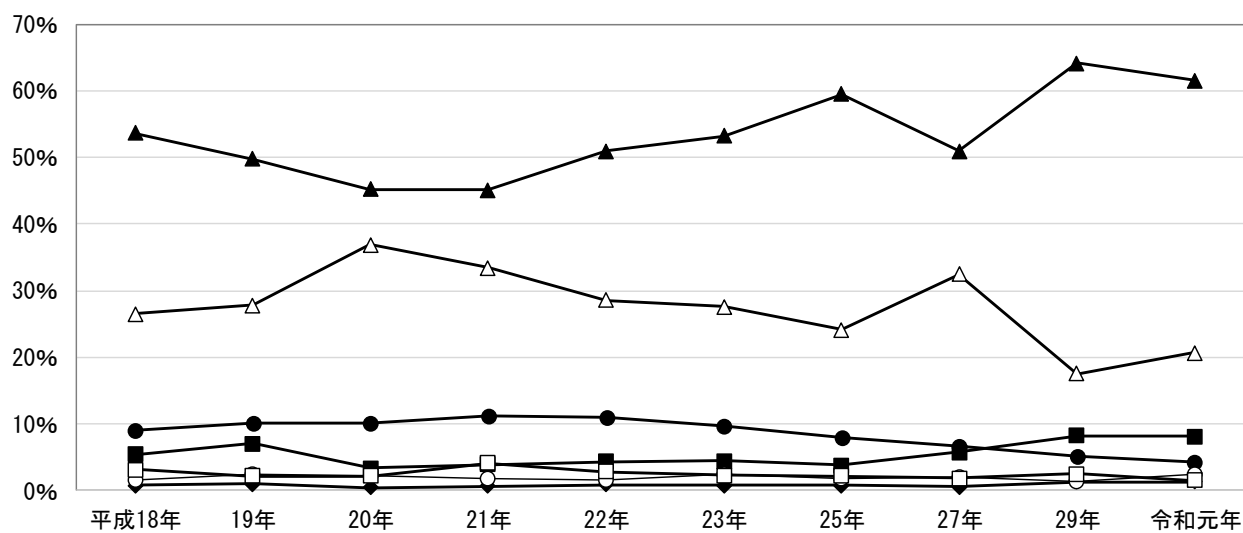
(1) 暮らし向きの変化 (問 15)



昨年の今頃と比べて「変わらない」(61.6%)が6割以上を占めている。次いで「少し苦しくなった」(20.6%)、「少し楽になった」(8.1%)と続いている。

暮らし向きの変化について平成18年からの推移をみると、平成21年以降「変わらない」が増加を続け、平成27年に減少に転じたが、平成29年の調査で再び増加し、今回の調査で若干の減少をした。また、「とても楽になった」、「少し楽になった」を合計したポイントは前回と比べて0.1ポイント減少し、「少し苦しくなった」、「とても苦しくなった」の合計は2.2ポイント上昇している。(図9-1)

図9-1 暮らし向きの変化（経年変化）

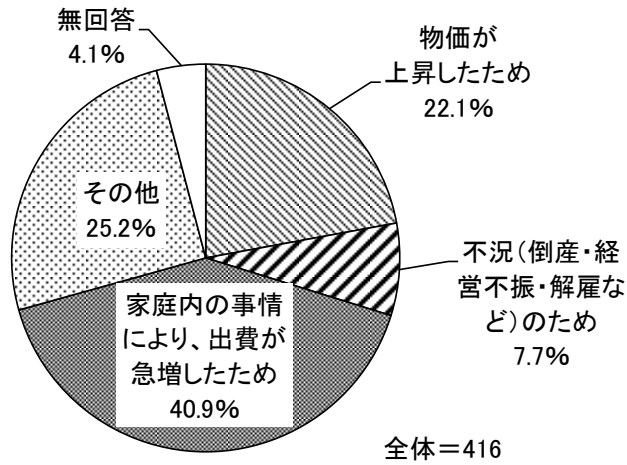


	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成25年	平成27年	平成29年	令和元年
◆とても楽になった	0.7	0.9	0.4	0.6	0.8	0.7	0.7	0.5	1.3	1.3
■少し楽になった	5.4	7.0	3.3	3.9	4.3	4.4	3.8	5.7	8.2	8.1
▲変わらない	53.7	49.8	45.2	45.1	51.0	53.2	59.5	51.0	64.2	61.6
△少し苦しくなった	26.5	27.8	36.9	33.4	28.5	27.6	24.1	32.4	17.5	20.6
●とても苦しくなった	9.1	10.0	10.0	11.2	11.0	9.6	8.0	6.7	5.2	4.3
○わからない	1.5	2.4	2.1	1.7	1.6	2.3	1.8	1.9	1.3	2.5
□無回答	3.1	2.1	2.1	4.1	2.8	2.2	2.1	1.8	2.4	1.5

(2) 暮らし向きの悪化理由 (問 15-1)

(問 15 で「4」「5」とお答えの方のみ)

問 15-1 それは主にどのようなことが原因となっていますか。(1つだけ)

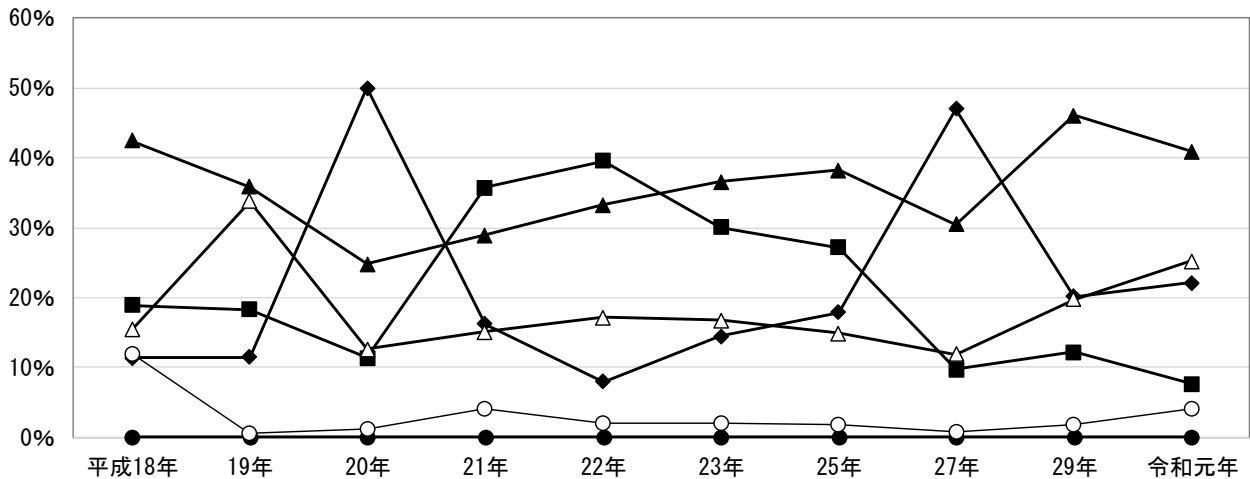


「家庭内の事情により、出費が急増したため」(40.9%)が最も高く、次いで「物価が上昇したため」(22.1%)、「不況(倒産・経営不振・解雇など)のため」(7.7%)の順となっている。

暮らし向きの悪化理由の経年変化をみると、おおむね横ばいとなっているが、「物価の上昇」については、平成20年と平成27年に悪化理由として多く挙げられた。

今回の調査では、「不況」が4.5ポイント減少、「出費の急増」が5.1ポイント減少し、「物価の上昇」が、1.9ポイント上昇をした。(図9-2)

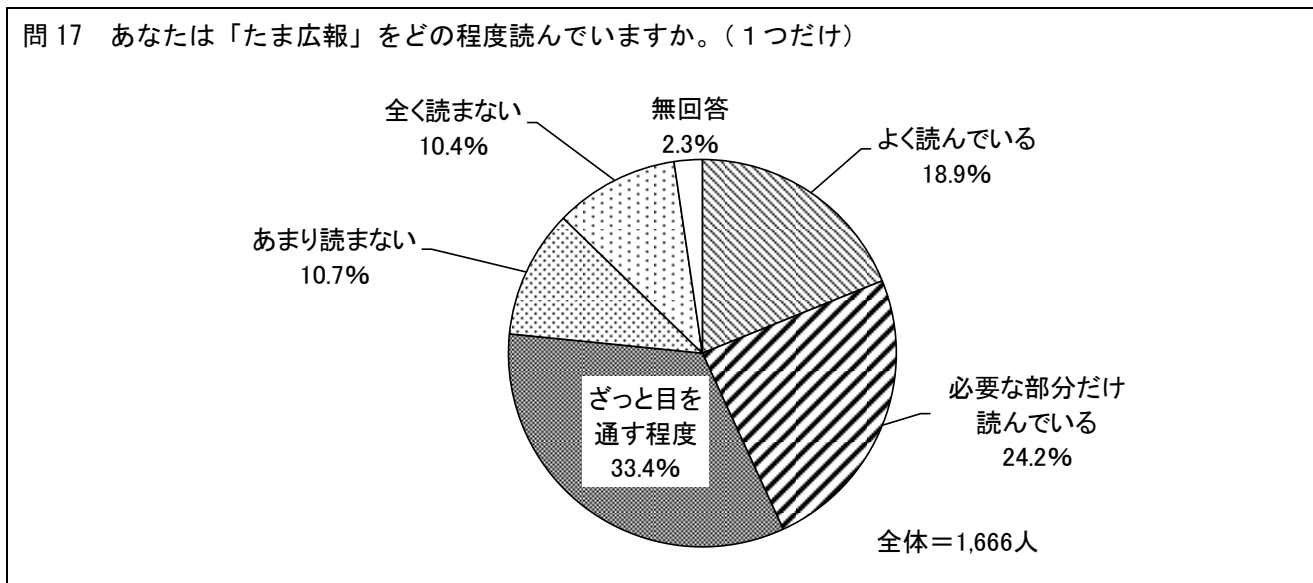
図9-2 暮らし向きの悪化理由 (経年変化)



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成25年	平成27年	平成29年	令和元年
◆物価の上昇	11.4	11.5	50.0	16.2	8.0	14.5	17.9	47.0	20.2	22.1
■不況	18.9	18.3	11.4	35.7	39.5	30.1	27.2	9.7	12.2	7.7
▲出費の急増	42.4	35.8	24.8	28.9	33.3	36.5	38.2	30.5	46.0	40.9
△その他	15.4	33.8	12.6	15.1	17.2	16.7	14.9	11.9	19.7	25.2
●わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
○無回答	11.9	0.6	1.3	4.1	2.0	2.1	1.8	0.9	1.9	4.1

8. たま広報について

(1) 「たま広報」の精読度 (問 17)

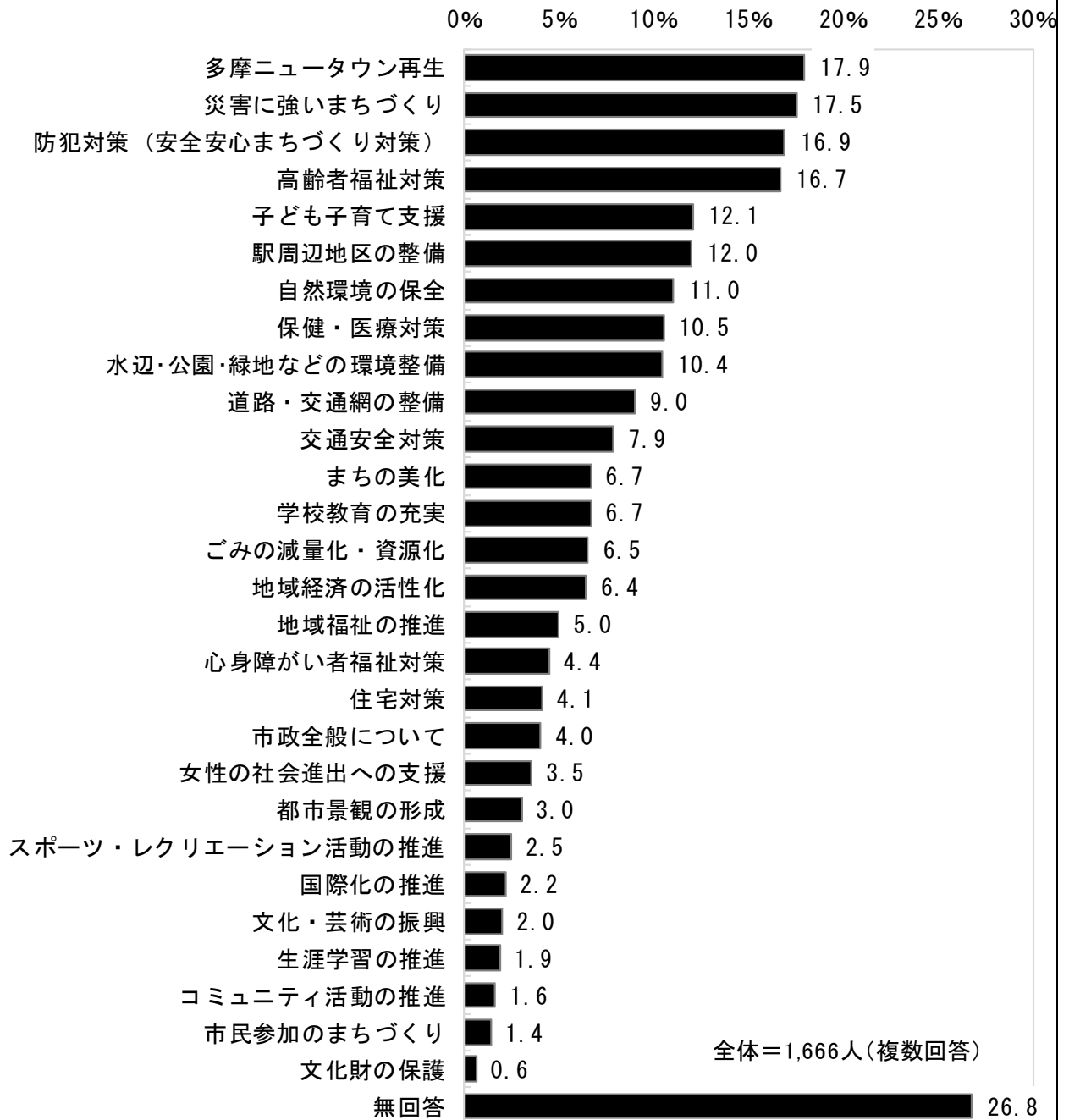


「ざっと目を通す程度」(33.4%)が高く、次いで「必要な部分だけ読んでいる」(24.2%)、「よく読んでいる」(18.9%)、「あまり読まない」(10.7%)の順となっている。「よく読んでいる」、「必要な部分だけ読んでいる」、「ざっと目を通す程度」を合わせた“読んでいる”は76.5%で、7割以上を占めている。一方、「全く読まない」(10.4%)も1割程度みられる。

9. 市政への要望

(1) 行政に特に力を入れてほしいこと (問 33)

問 33 行政に特に力を入れてほしい項目を1)～28)の中から番号でお答えください。(3つまで)

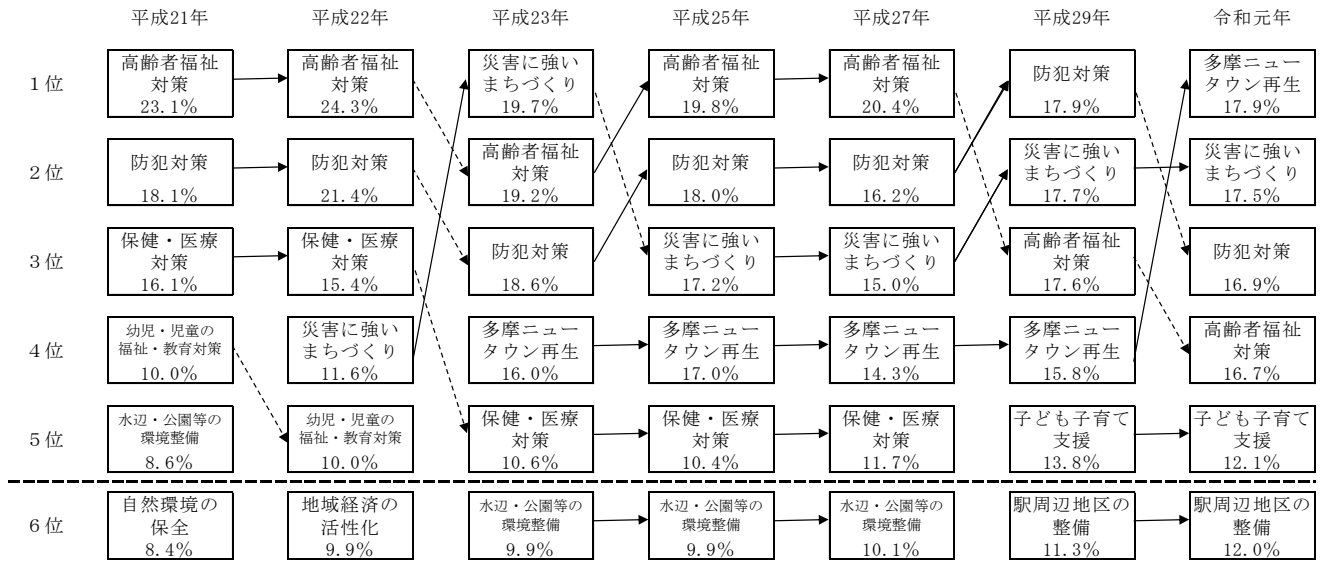


「多摩ニュータウン再生」(17.9%)が最も高く、次いで「災害に強いまちづくり」(17.5%)、「防犯対策(安全安心まちづくり対策)」(16.9%)、「高齢者福祉対策」(16.7%)の順となっている。

施策の変化をみると、「高齢者福祉対策」は平成21年度から平成27年度までは1位か2位を堅持していたが、平成29年では3位に転じた。「防犯対策(安全安心まちづくり対策)」はいずれの調査においても1位～3位の間である。

今回の調査では、平成23年調査以降、4位に位置していた「多摩ニュータウン再生」が初めて1位の項目となり、「災害に強いまちづくり」、「防犯対策」、「高齢者福祉対策」と続いている。(図15-1)

図 15-1 行政に力を入れてほしいこと（経年変化）

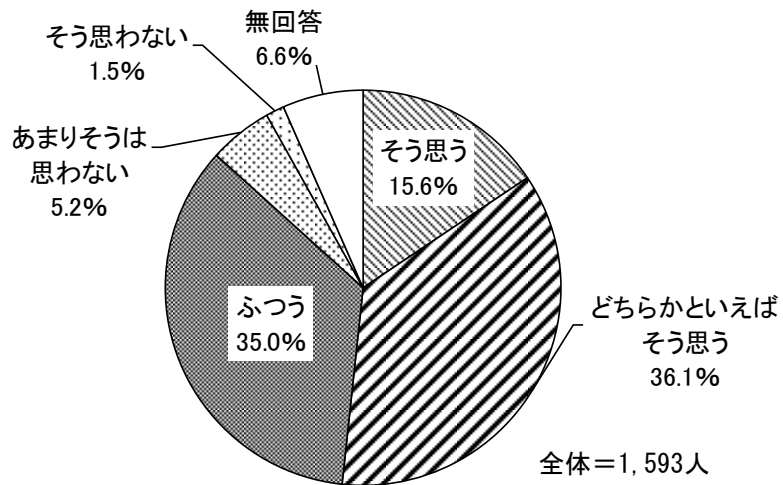


10. 生活の中での実感

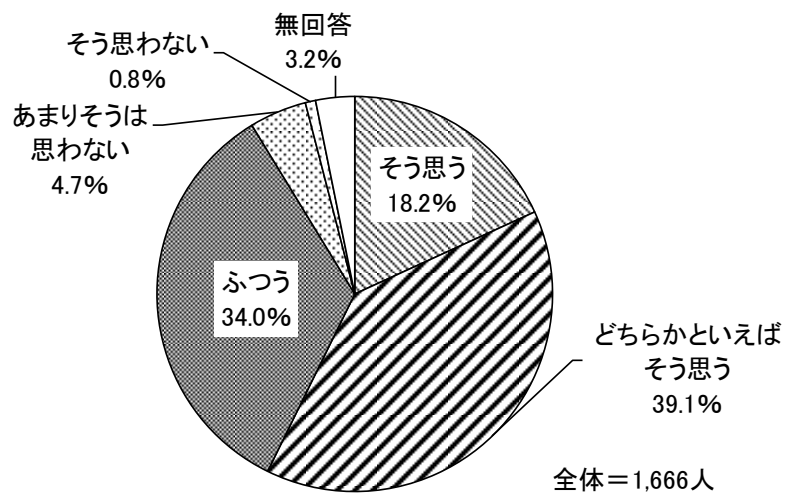
(1) 日常生活での実感 (問 35)

1) 子育てがしやすいまち

【29年度調査】



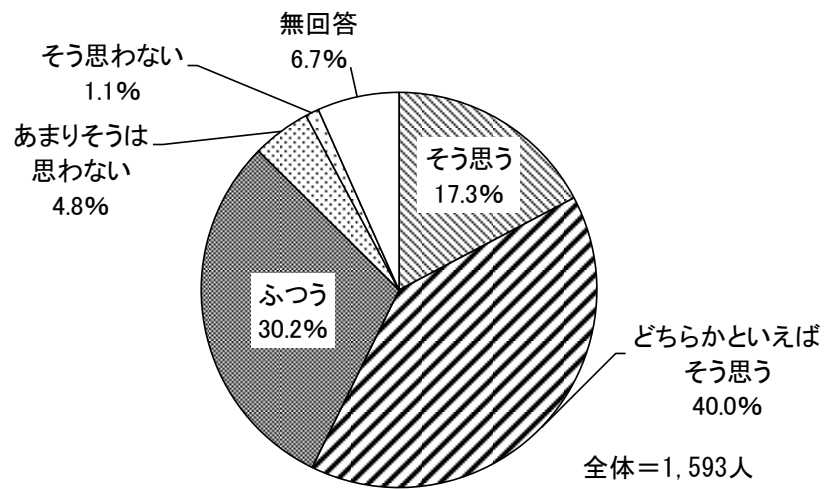
【今回調査】



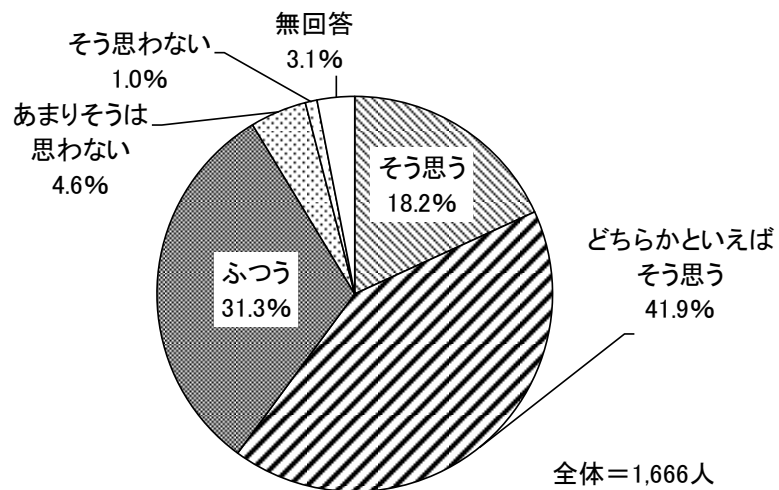
“子育てがしやすいまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価 (57.3%) が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価 (5.5%) より上回っている。前回 (平成 29 年) と比べ肯定的評価は約 5.6 ポイント増加した。

2) 子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまち

【29年度調査】



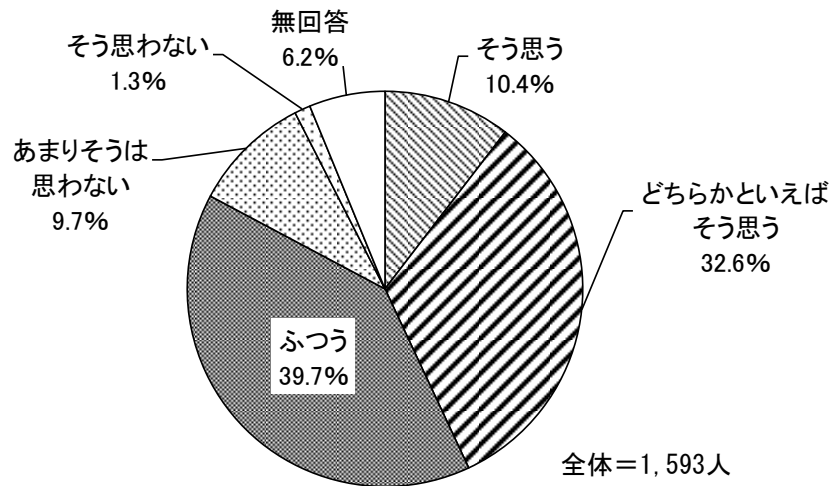
【今回調査】



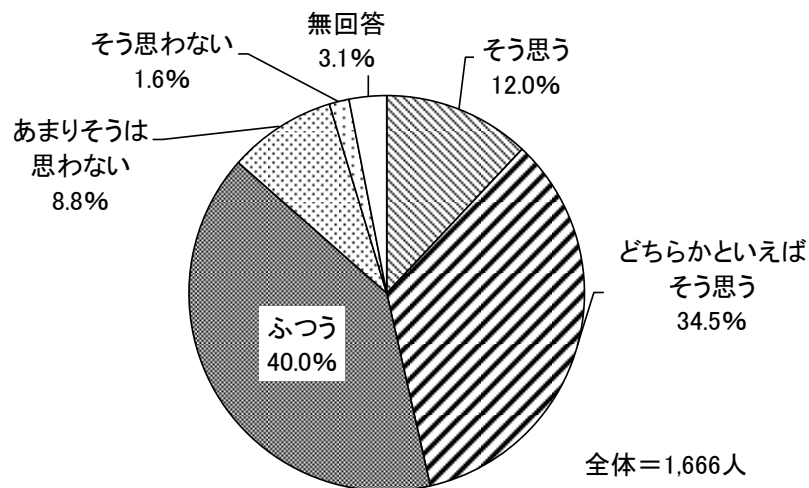
“子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（60.1%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（5.6%）より上回っている。

3) 地域の支え合いにより、市民が住みなれた地域で暮らし続けられるまち

【29年度調査】



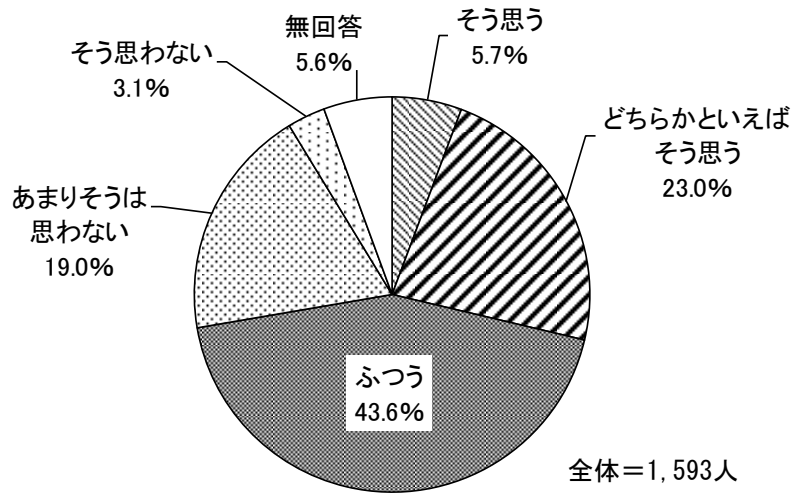
【今回調査】



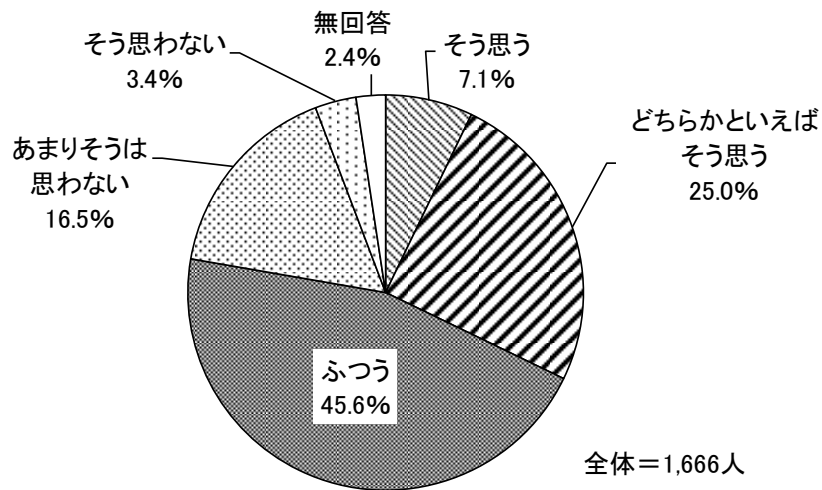
“地域の支え合いにより、市民が住みなれた地域で暮らし続けられるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（46.5%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（10.4%）より上回っている。

4) 高齢者がいきいきと暮らせるまち

【29年度調査】



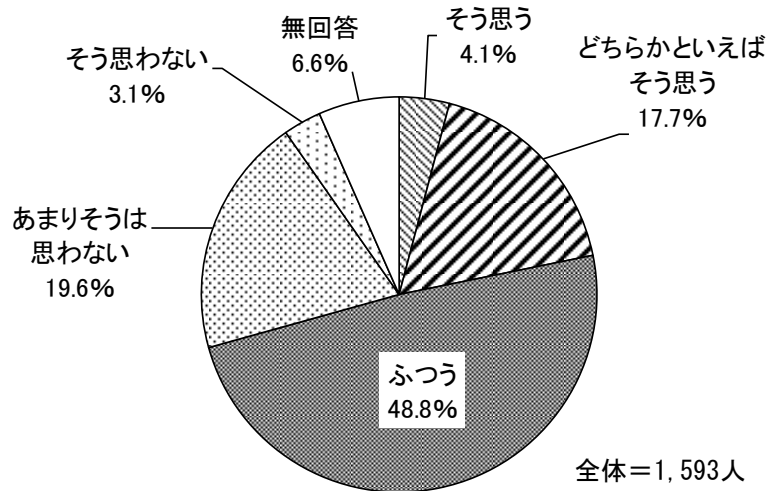
【今回調査】



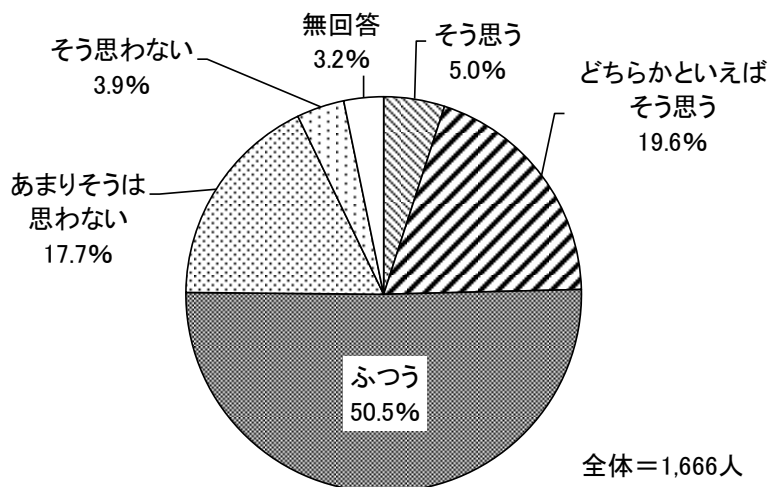
“高齢者がいきいきと暮らせるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（32.1%）は、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（19.9%）より上回っている。前回と比べ否定的評価が2.2ポイント減少した。

5) 障がい者が安心して暮らせるまち

【29年度調査】



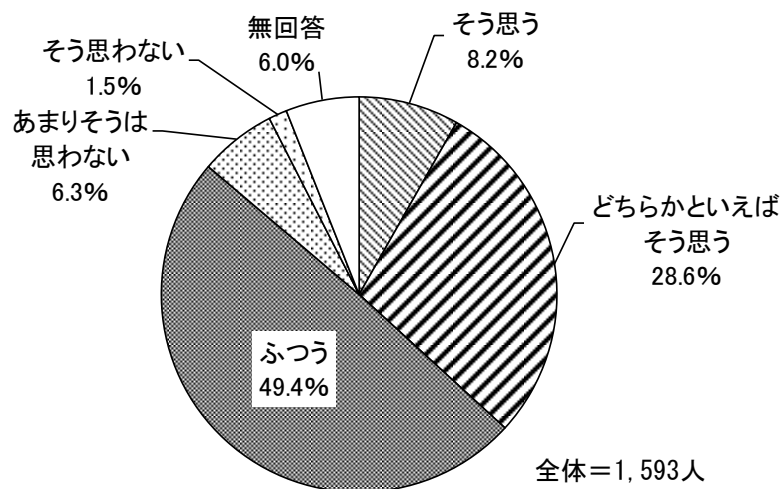
【今回調査】



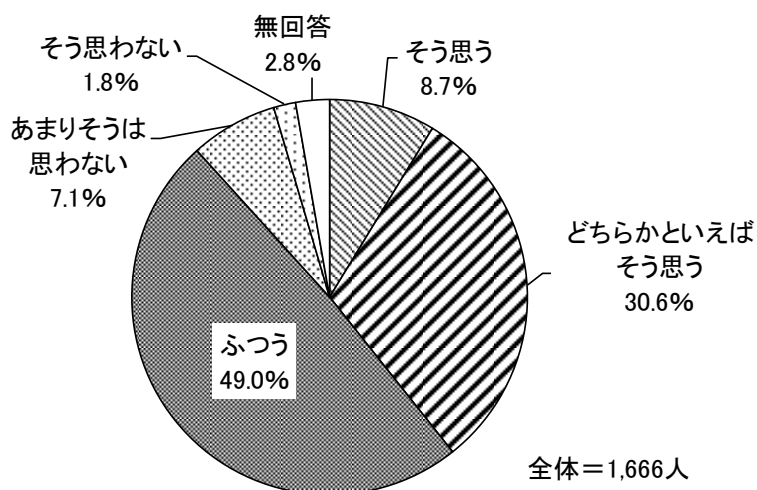
“障がい者が安心して暮らせるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（24.6%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（21.6%）より上回っている。前回との比較では肯定的評価が2.8ポイント上昇、否定的評価が1.1ポイント減少した。

6) 市民が平和に暮らせる（差別や人権侵害がない）まち

【29年度調査】



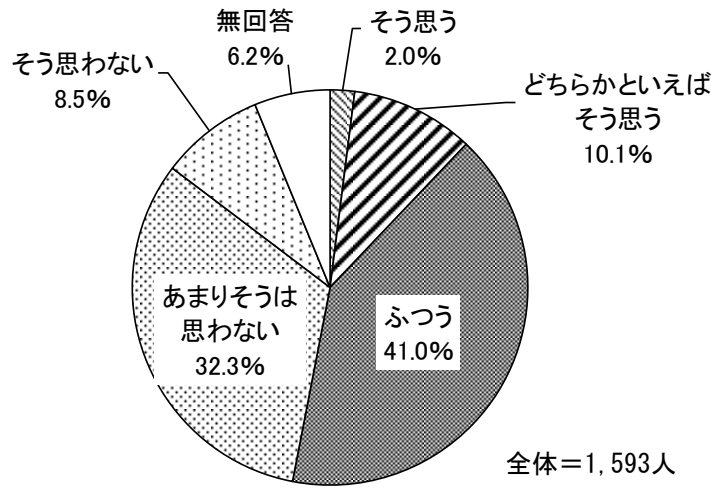
【今回調査】



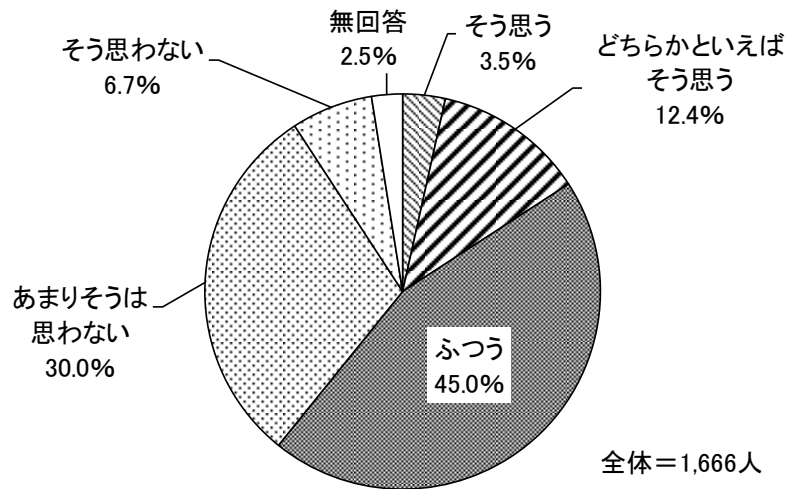
“市民が平和に暮らせるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価(39.3%)が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価(8.9%)より上回っている。

7) 地域産業の活気・活力があるまち

【29年度調査】



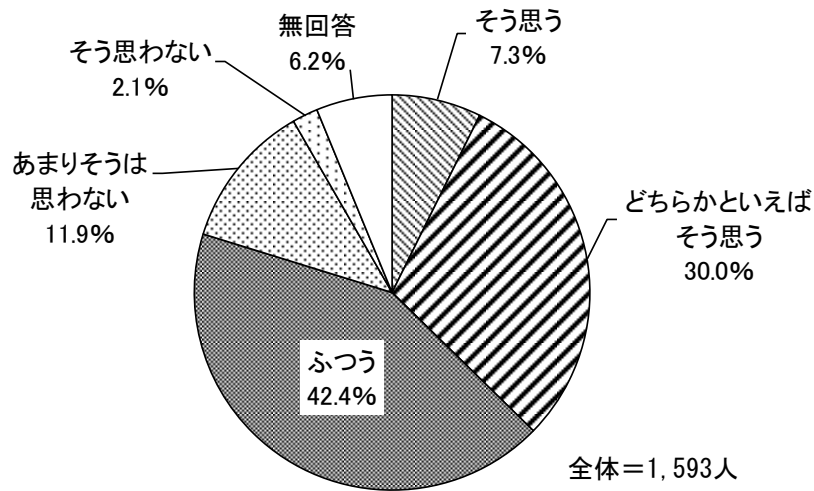
【今回調査】



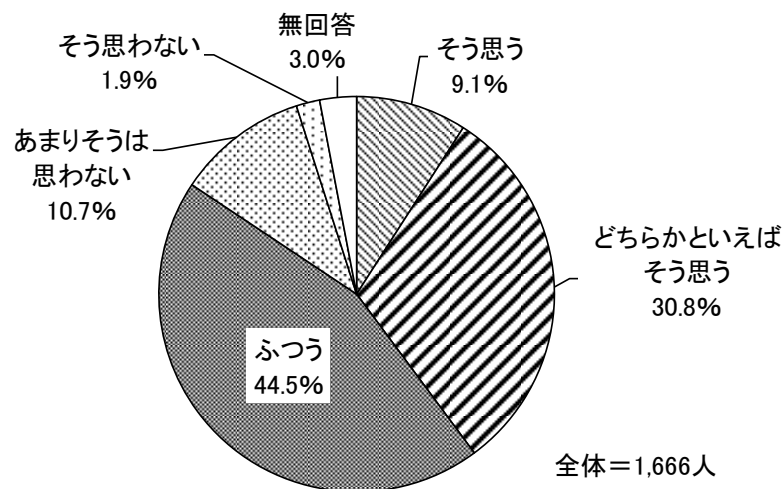
“地域産業の活気・活力があるまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（15.9%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（36.7%）より上回っている。

8) 文化活動やスポーツをするための環境がよいまち

【29年度調査】



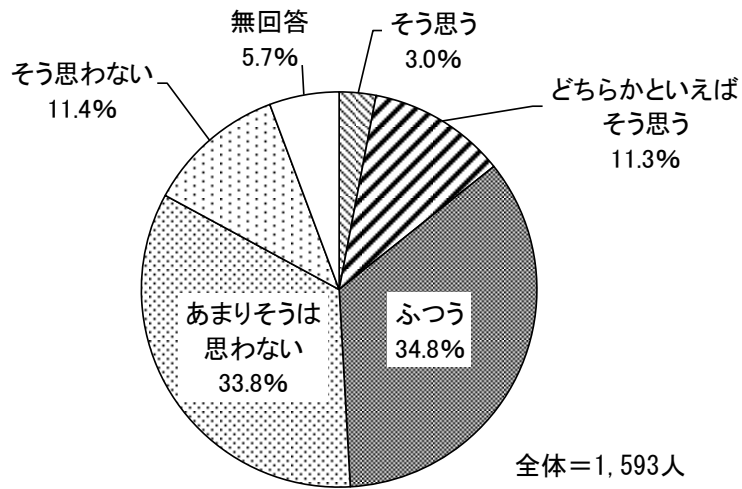
【今回調査】



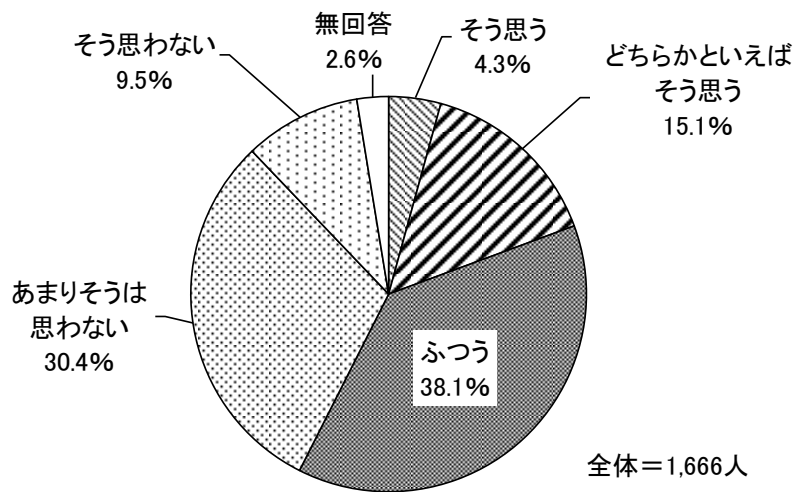
“文化活動やスポーツをするための環境がよいまち”については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（39.9%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（12.6%）より上回っている。

9) 観光の面から魅力のあるまち

【29年度調査】



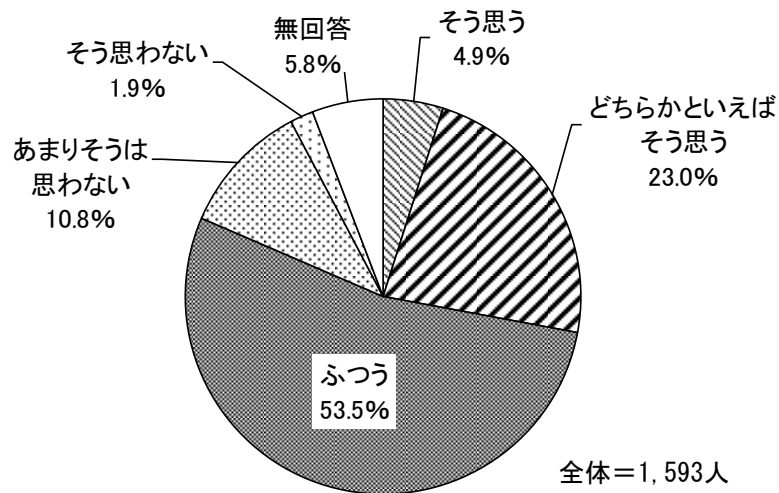
【今回調査】



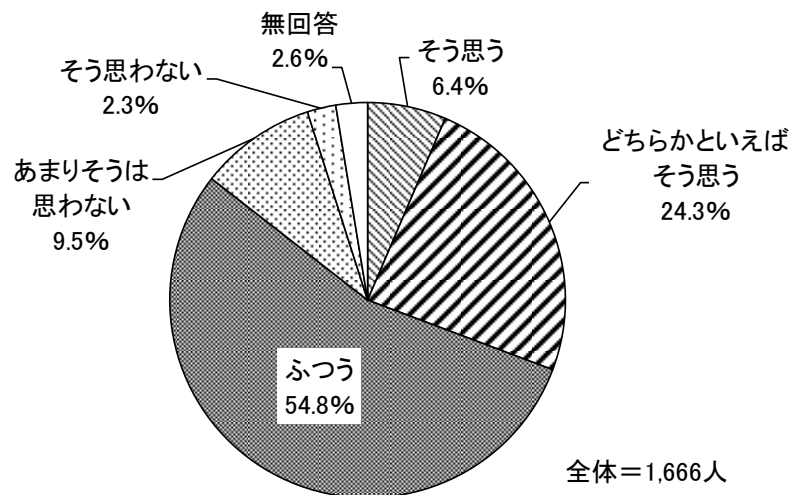
“観光の面から魅力のあるまち”について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価(19.4%)が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価(39.9%)を下回っている。

10) 防災の面から見て安全・安心なまち

【29年度調査】



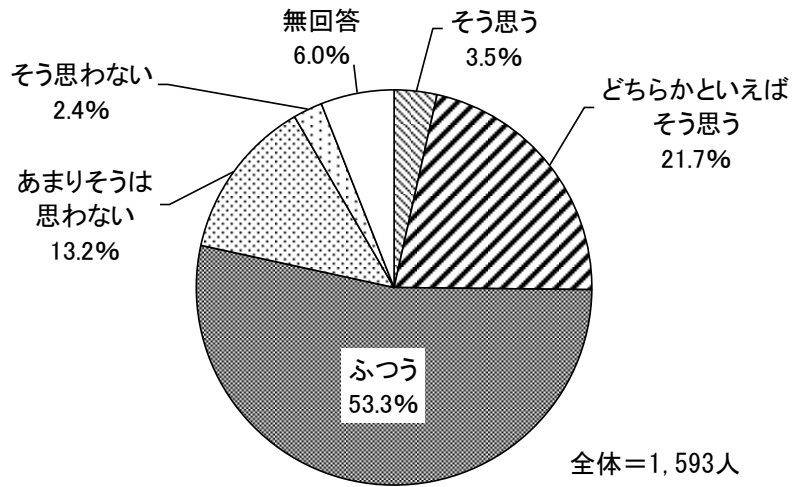
【今回調査】



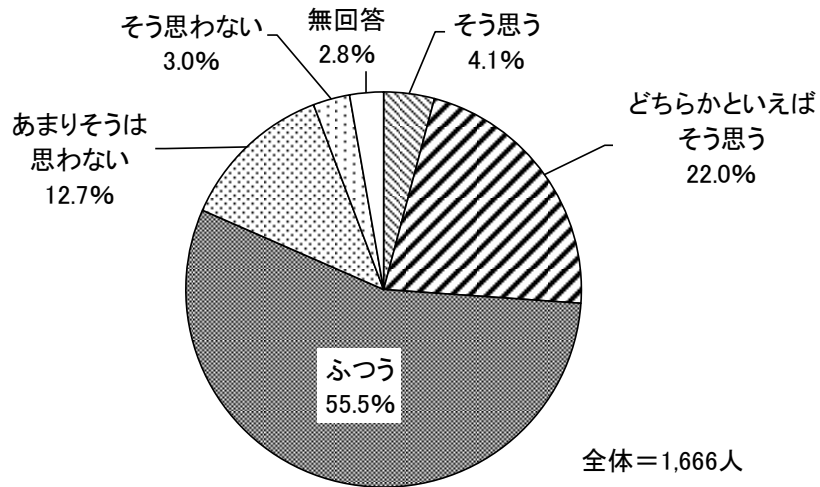
“防災の面から見て安全・安心なまち”について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（30.7%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（11.8%）を約19ポイント上回っている。

11) 防犯の面から見て安全・安心なまち

【29年度調査】



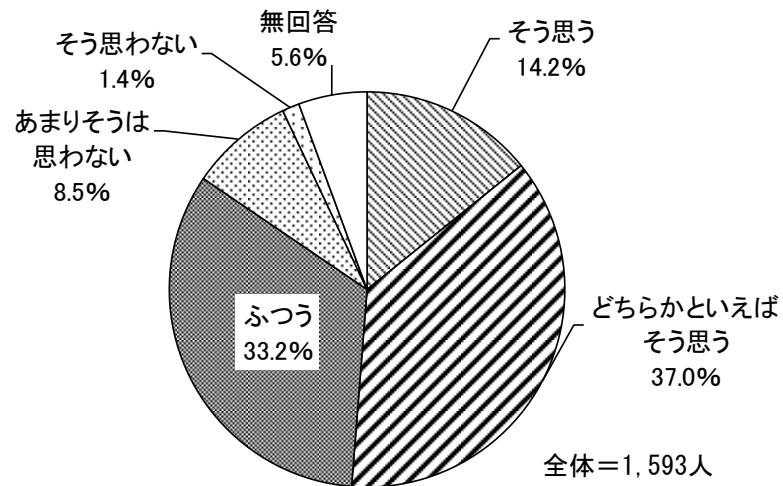
【今回調査】



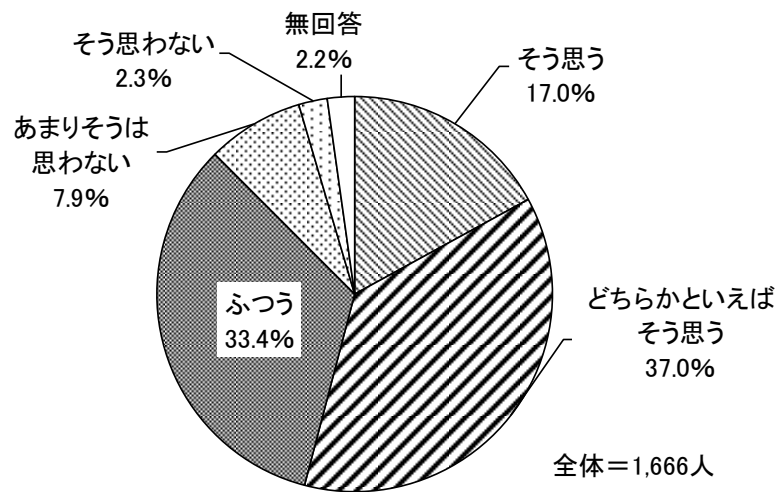
“防犯の面から見て安全・安心なまち”について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（26.1%）が、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（15.7%）より上回っている。

12) 道路や公園などの都市基盤が整ったまち

【29年度調査】



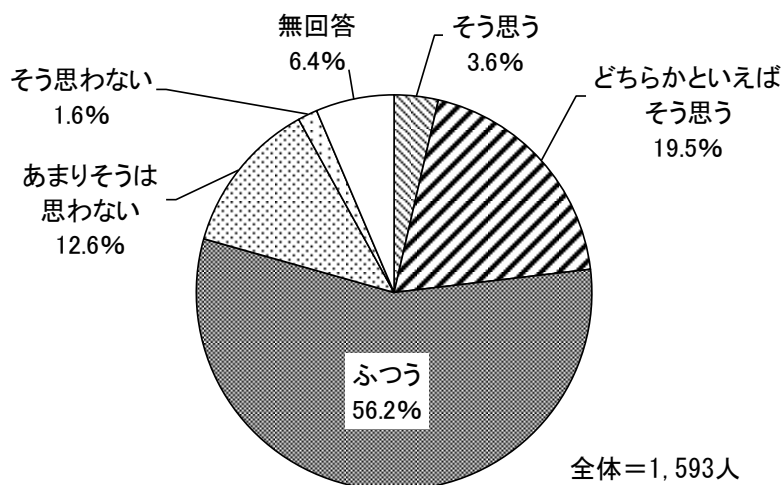
【今回調査】



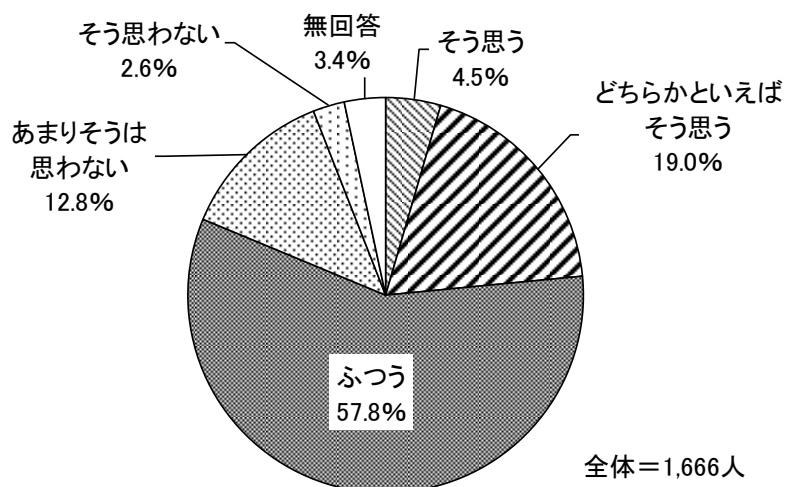
“道路や公園などの都市基盤が整ったまち”について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（54.0%）が過半数を占めている。「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（10.2%）は1割にとどまっている。

13) 身の回りの地域から地球規模までの環境に配慮したまち

【29年度調査】



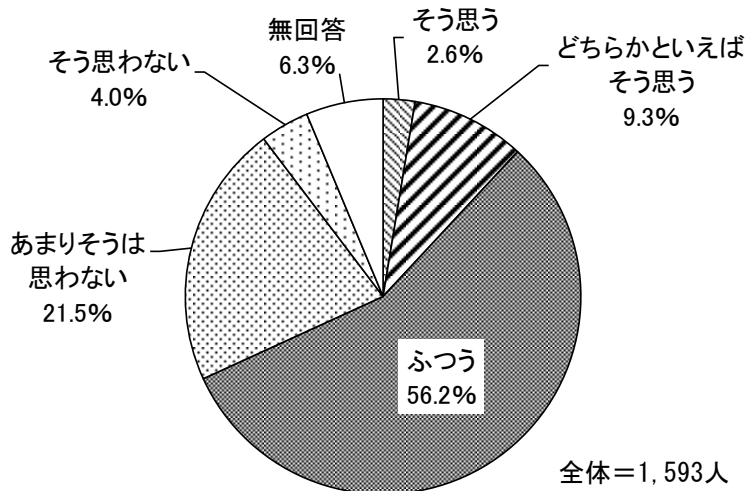
【今回調査】



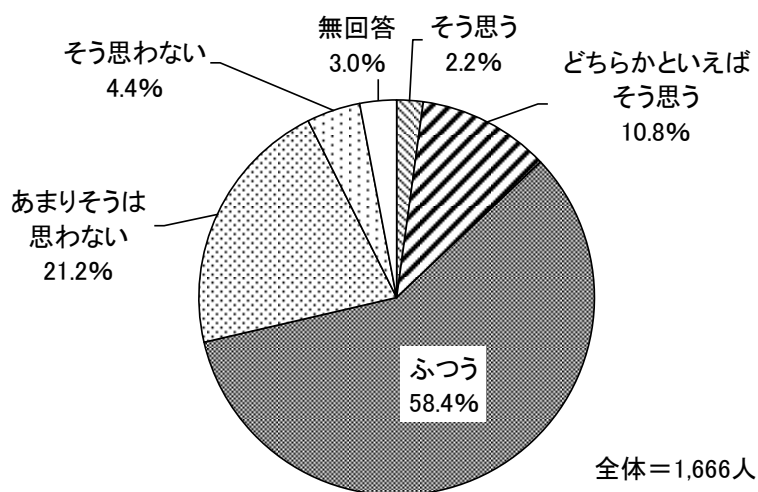
“身の回りの地域から地球規模までの環境に配慮したまち”について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（23.5%）は、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（15.4%）を8.1ポイント上回っている。

14) 仕事や地域活動を通して、自分の力を発見・発揮できる機会があるまち

【29年度調査】



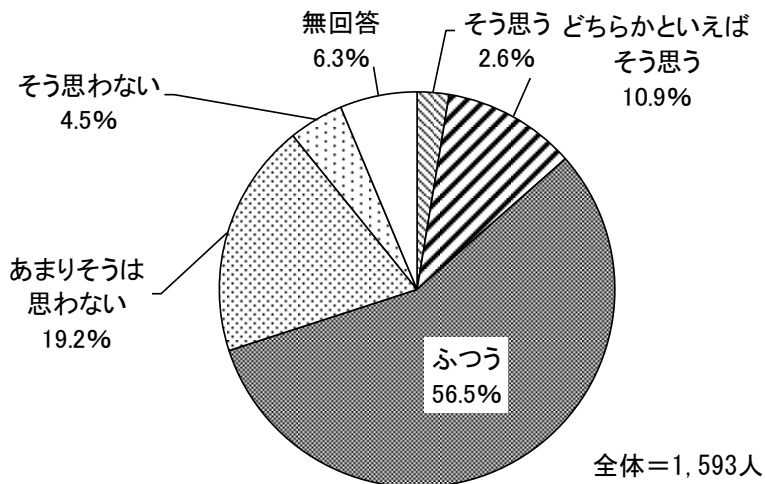
【今回調査】



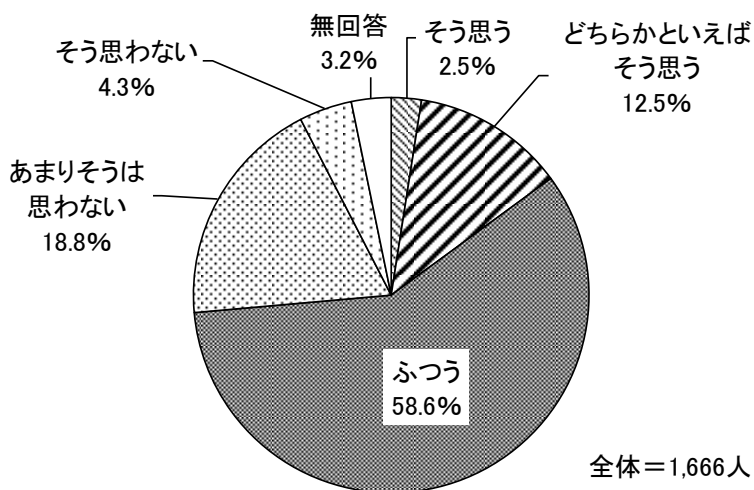
“仕事や地域活動を通して、自分の力を発見・発揮できる機会があるまち”について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（13.0%）は、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（25.6%）を下回っている。

15) 多様な担い手が協働し、人々がつながりを持って互いに支え合えるまち

【29年度調査】



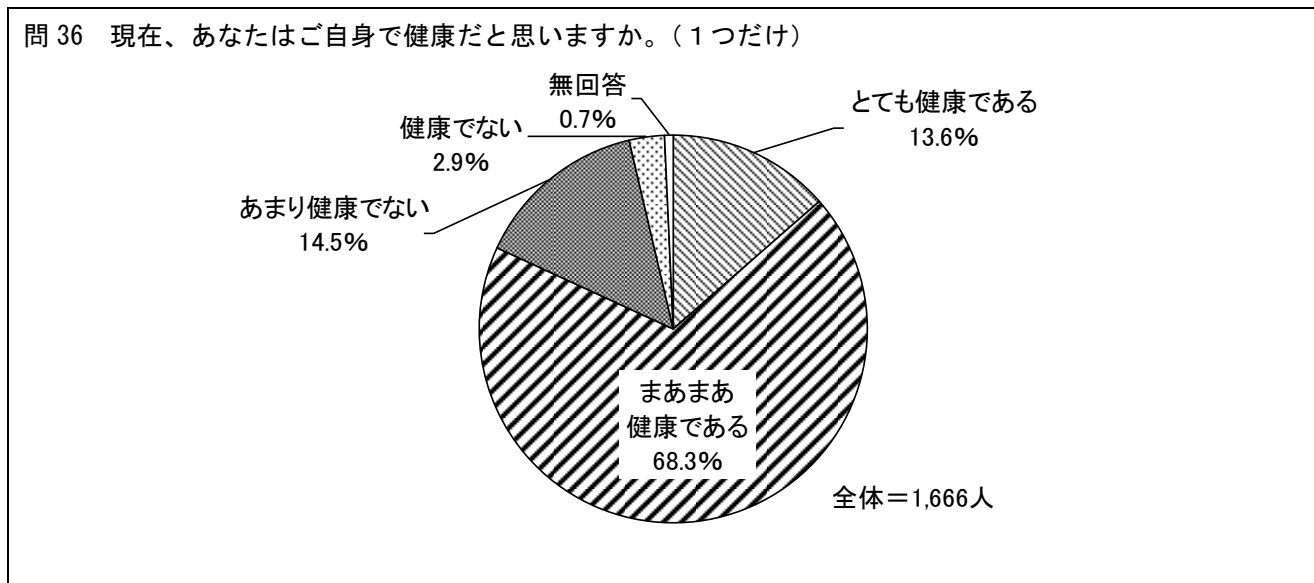
【今回調査】



“多様な担い手が協働し、人々がつながりを持って互いに支え合えるまち”について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価（15.0%）は、「あまりそうは思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的評価（23.1%）を下回っている。

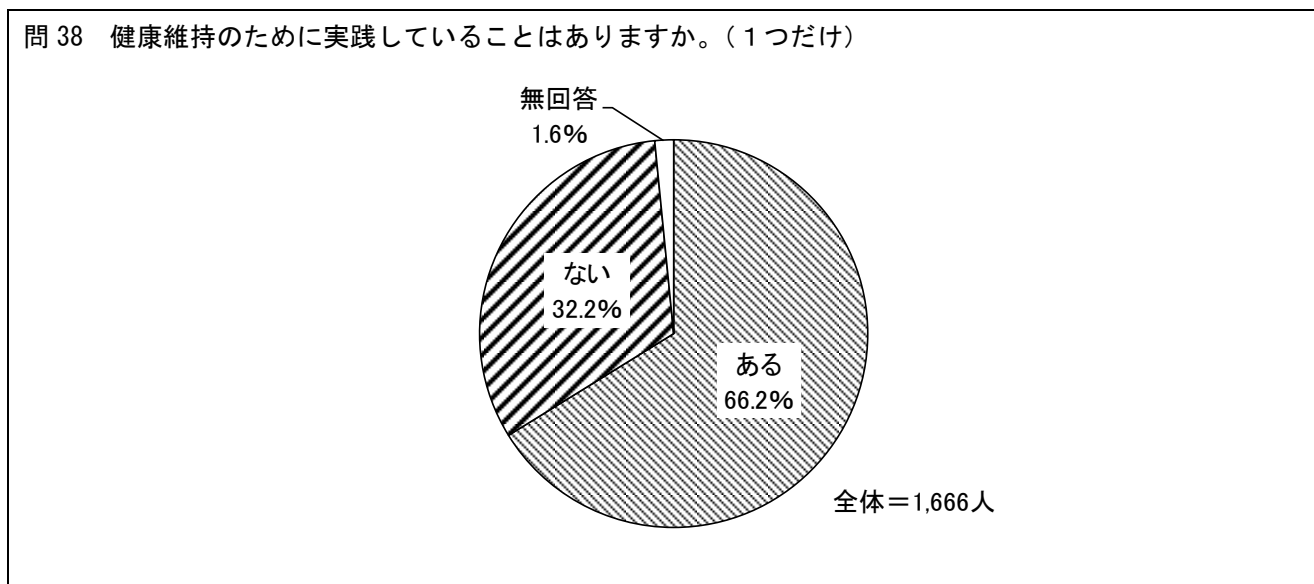
11. 健康・食育

(1) 現在の健康状態 (問 36)



「とても健康である」(13.6%)と「まあまあ健康である」(68.3%)を合わせた“健康である”(81.9%)が8割を超え、「あまり健康でない」(14.5%)と「健康でない」(2.9%)を合わせた“健康でない”(17.4%)を大きく上回っている。

(2) 健康維持のために実践していること (問 38)

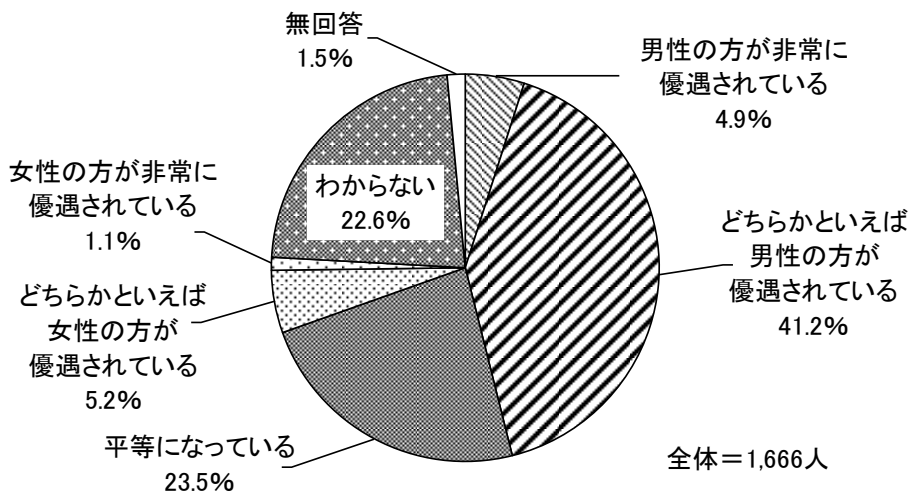


「実践していることがある」(66.2%)が「実践していることがない」(32.2%)より34ポイント上回っている。

12. 男女平等

(1) 男女の地位の平等感 (問 45)

問 45 あなたは現在、家庭・地域・制度・慣習などを通して男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1つだけ)

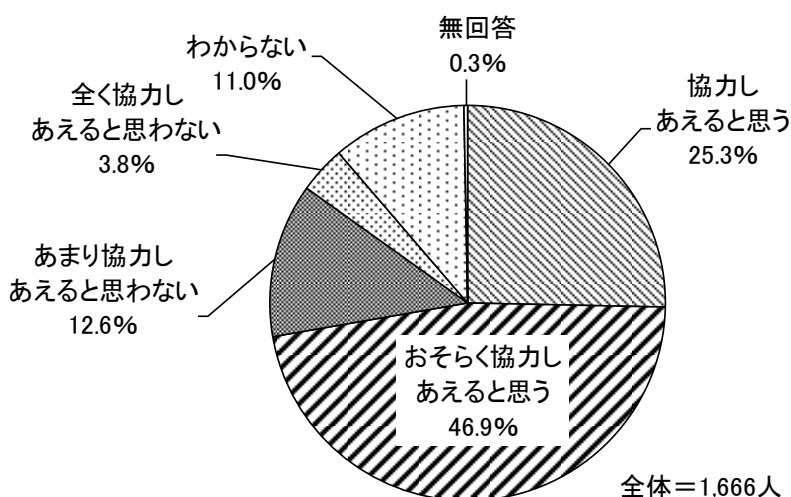


「平等になっている」(23.5%)、「男性の方が非常に優遇されている」(4.9%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(41.2%)を合わせた“男性の方が優遇されている”(46.1%)が、「女性の方が非常に優遇されている」(1.1%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(5.2%)を合わせた“女性の方が優遇されている”(6.3%)を大きく上回っている。

13. いざという時の近所との関わり

(1) いざという時の近隣協力関係 (問 50)

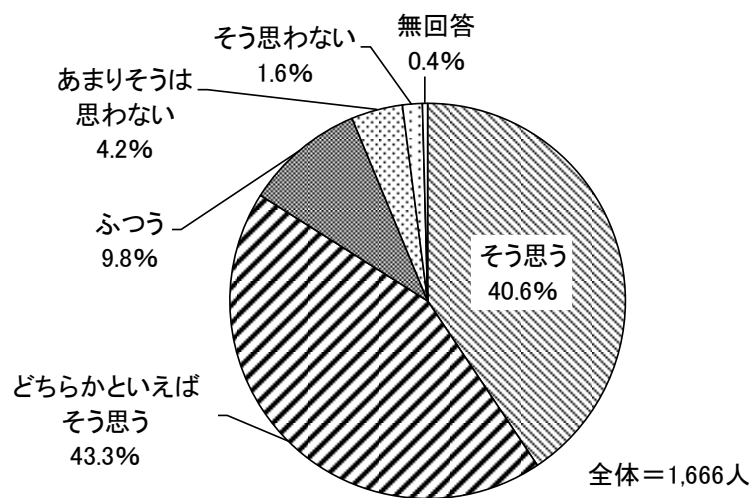
問 50 災害時など、いざという時に近所の人と協力しあえると思いますか。(1つだけ)



「協力しあえると思う」(25.3%)と「おそらく協力しあえると思う」(46.9%)を合わせると、7割(72.2%)が肯定的に答えた。一方、「あまり協力しあえると思わない」(12.6%)と「全く協力しあえると思わない」(3.8%)を合わせると16.4%が否定的に答え、肯定的に答えた方が大きく上回った。

(2) 地域での助け合える関係 (問 51)

問 51 あなたは地域で困ったときに助け合える関係を築きたいと思いますか。(1つだけ)



地域で助け合える関係を築きたいについては、「そう思う」(40.6%)と「どちらかといえばそう思う」(43.3%)を合わせた“築きたいと思う”(83.9%)が8割以上となっている。

参考資料（第38回多摩市政世論調査報告書 章立）

*は、概要版に一部掲載した項目です。

<ul style="list-style-type: none"> * I 調査の概要 * II 調査対象者の特性 III 質問と回答 * IV 調査結果の分析 * 1. 定住意向 <ul style="list-style-type: none"> (1) 前住地（問1） (2) 転入のきっかけ（問1-1） (3) 多摩市を選んだ理由（問1-2） * (4) 居住年数（問2） * (5) 多摩市の認識（問3） * (6) 定住意向（問4） <ul style="list-style-type: none"> (7) 転出のきっかけ（問4-1） (8) 転出理由（問4-2） * 2. 生活環境 <ul style="list-style-type: none"> * (1) 住みよさの総合評価（問5） * (2) 生活環境の総合評価（問6） * 3. 環境問題の関心 <ul style="list-style-type: none"> * (1) 関心のある地域レベルの環境問題（問7） * 4. 地域活動と生涯学習 <ul style="list-style-type: none"> * (1) 地域活動の現況と参加意向（問8） <ul style="list-style-type: none"> (2) 行政が力を入れるべき地域活動（問8） (3) 生涯学習の経験（問9） 5. 文化芸術鑑賞状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 文化や芸術イベントの参加・鑑賞頻度（問10） 6. 文化芸術の創作状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 文化や芸術の創作頻度（問11） * 7. スポーツの実施状況 <ul style="list-style-type: none"> * (1) スポーツの実施頻度（問12） * 8. 日常生活での実感 <ul style="list-style-type: none"> * (1) 現在の幸福度（問13） * (2) 日常生活の悩み・不安（問14） * 9. 暮らし向き <ul style="list-style-type: none"> * (1) 暮らし向きの変化（問15） * (2) 暮らし向きの悪化理由（問15-1） 10. 市政への関心 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市政への関心度（問16） (2) 市政に関心のない理由（問16-1） 	<ul style="list-style-type: none"> * 11. たま広報について <ul style="list-style-type: none"> * (1) 「たま広報」の精読度（問17） <ul style="list-style-type: none"> (2) 「たま広報」の関心がある記事（問17-1） (3) 「たま広報」に求める情報（問18） (4) 公式ホームページ閲覧の有無（問19） (5) 市政情報の入手手段（問20） 12. 市議会参画と市議会のインターネット中継 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市議会への意見の反映（問21） (2) 多摩市議会への期待度（問22） (3) 市議員への相談や意見・要望（問23） (4) 市議会議員へ伝えた意見（問23-1） (5) 意見を伝えた方法（問23-2） (6) 伝えていない理由（問23-3） (7) 市議会中継の視聴の有無（問24） (8) 市議会インターネット中継の視聴媒体（問24-1） (9) 市議会インターネット中継を視聴しない理由（問24-2） 13. 窓口対応の満足度 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市役所及び出張所の窓口サービスの満足度（問25） 14. 市政の取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) 認知度（問26～32-①） (2) 評価度（問26～32-②） (3) 認知度と評価度からみた行政ニーズ （問26～32-①×②） (4) ライフステージ別広報活動の必要性が高い施策 （問26～32） * 15. 市政への要望 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市政の満足度（問33） * (2) 行政に特に力を入れてほしいこと（問33） 16. 市施設の利用状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 市施設の認知度と利用状況（問34） * 17. 生活の中での実感 <ul style="list-style-type: none"> * (1) 日常生活での実感（問35） <p style="text-align: center;">次頁に続く</p>
---	---

<p>* 18. 健康・食育</p> <p>* (1) 現在の健康状態 (問36) (2) 健康づくりへの関心 (問37)</p> <p>* (3) 健康維持のために実践していること (問38) (4) かかりつけの医師の有無 (問39) (5) かかりつけの歯科医の有無 (問40) (6) 習慣的な喫煙の有無 (問41) (7) 受動喫煙の配慮 (問41-1) (8) 朝食の摂取状況 (問42) (9) 野菜のとり方への留意 (問43)</p> <p>19. 児童虐待 (1) 児童虐待の通告・相談先の認知度 (問44) (2) 知っている通告先 (問44-1)</p>	<p>* 20. 男女平等</p> <p>* (1) 男女の地位の平等感 (問45) 21. 犯罪被害 (1) 犯罪被害者等相談窓口の認知度 (問46) 22. 葬儀・お墓 (1) 希望する葬儀方法 (問47) (2) お墓を新たに取得する必要性 (問48) (3) 公営墓地の合葬式の墓地利用意向 (問49)</p> <p>* 23. いざという時の近所との関わり</p> <p>* (1) いざという時の近隣協力関係 (問50)</p> <p>* (2) 地域での助け合える関係 (問51)</p> <p>V 結果の数表</p>
--	---

令和2年1月発行

■発行 東京都多摩市 企画政策部 秘書広報課
東京都多摩市関戸六丁目12番地1
電話 042(338)6806 (直通) FAX 042(338)3311

■多摩市公式ホームページアドレス <http://www.city.tama.lg.jp/>